

第4章 類型別方針

4-1 建築物系施設

本市の建築物系施設に関する類型別の方針は、次のとおりです。

4-1-1 市民文化系施設

(1) 集会施設（近隣センター、自治会館等）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 集会施設は、市内に38施設（うち、同一敷地内にある体育室が9施設）あり、近隣センターと自治会館に分類されます。なお、平成28年4月1日をもって、旧沼南公民館が沼南近隣センターに移行しています。 近隣センターは、市民に自主的な活動の場を提供し、市民相互の交流を支援して、地域づくりに関する事業を推進していくために設置されました。 自治会館は、旧沼南町が集会所（学習等供用施設）として建設した藤ヶ谷区民会館のほかに、清掃工場及び最終処分場の運営に伴う周辺生活環境の確保のために設置された3施設があります。 利用率の低い施設が少なからず存在することから、実状やニーズにあわせて施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を検討する必要があります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 近隣センターは、コミュニティエリアごとに一つの施設を維持していきます。ただし、どの近隣センターにも、集会、図書、スポーツ等に対応した全ての機能を備えるのではなく、地域の実状やニーズの変化にあわせて、施設のあり方を見直します。特に、利用率の低下が著しく、将来にわたり改善の見込みがない機能は、廃止を含めた検討を進めます。この中で、類似施設との集約化や他の公共施設との複合化、施設規模の縮減（ダウンサイジング）なども検討します。 建替えの際には、現位置だけではなく、学校等の公共施設の敷地や交通結節点等にぎわいのある場所などを検討します。また、民間施設・資金の活用も検討します。 近隣センター体育室（館）は、学校やスポーツ施設など他の公共施設との機能連携を検討します。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 受益者負担の適正化や事業の外部化などによる管理運営コストの削減を進めます。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○各施設のあり方を見直します。特に、「施設白書編」のポートフォリオ分析（相対比較）結果において、老朽化が進み、かつ、利用が少ない又はコストが高いと判断される施設を中心に他の用途での利用や廃止を含めた検討を進めます。 ○施設利用料を見直します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各施設の耐用年数を見据えて、他の施設との機能連携や集約化、複合化などによる総量縮減を進めます。 ○建替えを行う場合は、民間施設・資金の活用を進めます。 ○存続させる施設は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

○管理運営事業の外部化（指定管理者制度による地域管理等）を進めます。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

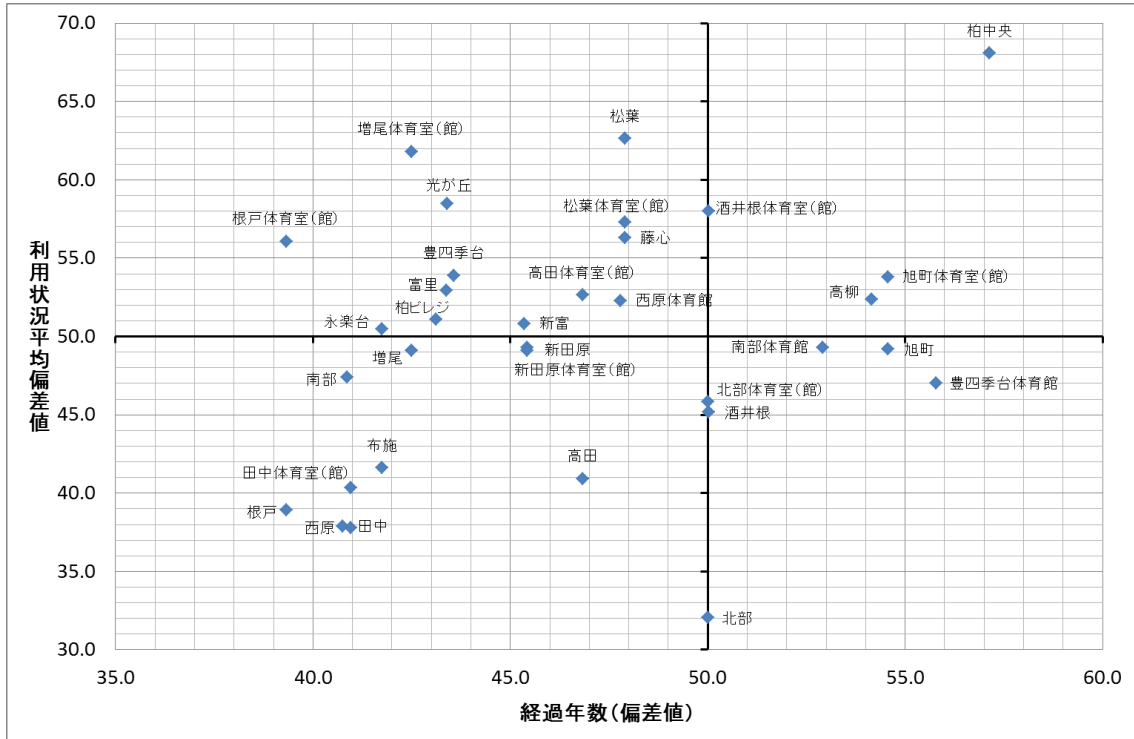


図 34 近隣センターの品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

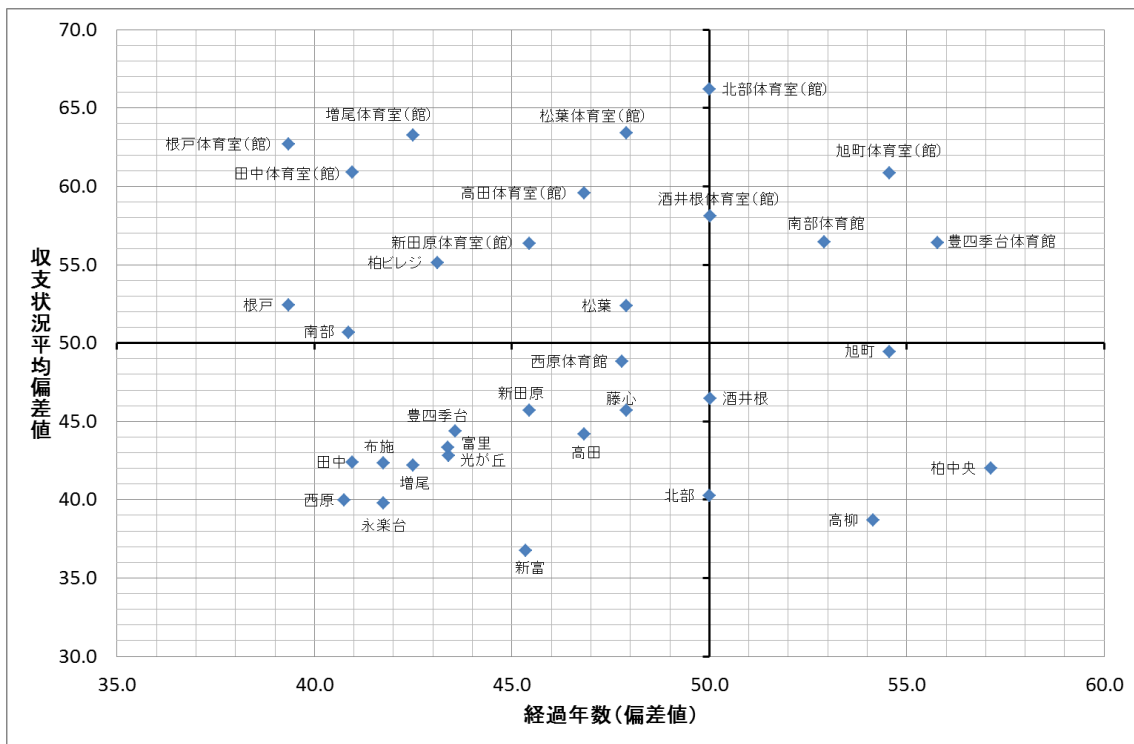


図 35 近隣センターの品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(2) 文化施設（市民文化会館、アミュゼ柏）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 文化施設は、市内に市民文化会館とアミュゼ柏の2施設があり、市民文化の向上と福祉の増進を図るために設置されました。また、アミュゼ柏は、コミュニティ活動の拠点となる柏中央近隣センターとの複合施設となっています。 柏市の近隣市にも、ホールなどの文化施設が立地しています。文化施設の今後のあり方を考える上では、近隣市の類似施設等との関係性も考慮に入れていく必要があります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 市民文化会館の小ホールは、アミュゼ柏のクリスタルホールや沼南近隣センターの大ホールと機能が重複するため、耐用年数を見据えて廃止を含めた施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を検討します。大ホールは、市が保有するホールとしては、規模・機能が唯一であることから当面存続します。ただし、広域的な視点で施設のあり方を検討します。 アミュゼ柏は、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○市民文化会館小ホールは、施設のあり方を検討します。 ○市民文化会館大ホールは、当面存続しますが、耐用年数を見据えて施設のあり方を再検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アミュゼ柏は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

(3) 交流施設（市民サロン）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 交流施設は、市内に市民交流サロンがあります。 市民交流サロンは、市民活動団体をはじめ、様々な市民が予約や申請無しで自由に打ち合わせや交流ができる開放型スペースとして設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 沼南庁舎のスペースの有効な活用を図る中で、本施設（機能）についても存廃を含めて今後のあり方を検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○今後のあり方を検討します。 	

4-1-2 社会教育系施設

(1) 図書館

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 図書館は、市内に18施設（単独館が2施設、近隣センター内が14施設、近隣センター併設が1施設、沼南庁舎内が1施設）あります。 50年を経過する建物があるなど、老朽化している施設が多く存在しています。 延床面積も本館約2,200㎡、分館平均100～200㎡と、同規模自治体と比較しても狭隘であり、特に「保存書庫」の慢性的スペース不足が続き、基本的図書館サービスの提供にも支障を来たしています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 図書館は、分館を含め施設のあり方（必要な機能、規模及び配置）を見直し、時代の変化に応じた機能向上とあわせて、学校図書館や大学図書館との連携強化、他の公共施設との複合化や商業施設などの民間施設（資金）の活用、適正な蔵書構成及び保存書庫のあり方について検討します。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 ICTの活用を進めるとともに、管理・運営の外部化等によるサービスの向上及びコストの削減を検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○施設のあり方を見直します。特に、「施設白書編」のポートフォリオ分析（相対比較）結果において、老朽化が進み、かつ、利用が少ない又はコストが高いと判断される施設を中心に検討を進めます。 ○ICTの活用（郷土資料のデジタル化、ICTタグ等による図書館システムの充実）を進めます。 ○管理・運営の外部化等を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存続させる施設は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

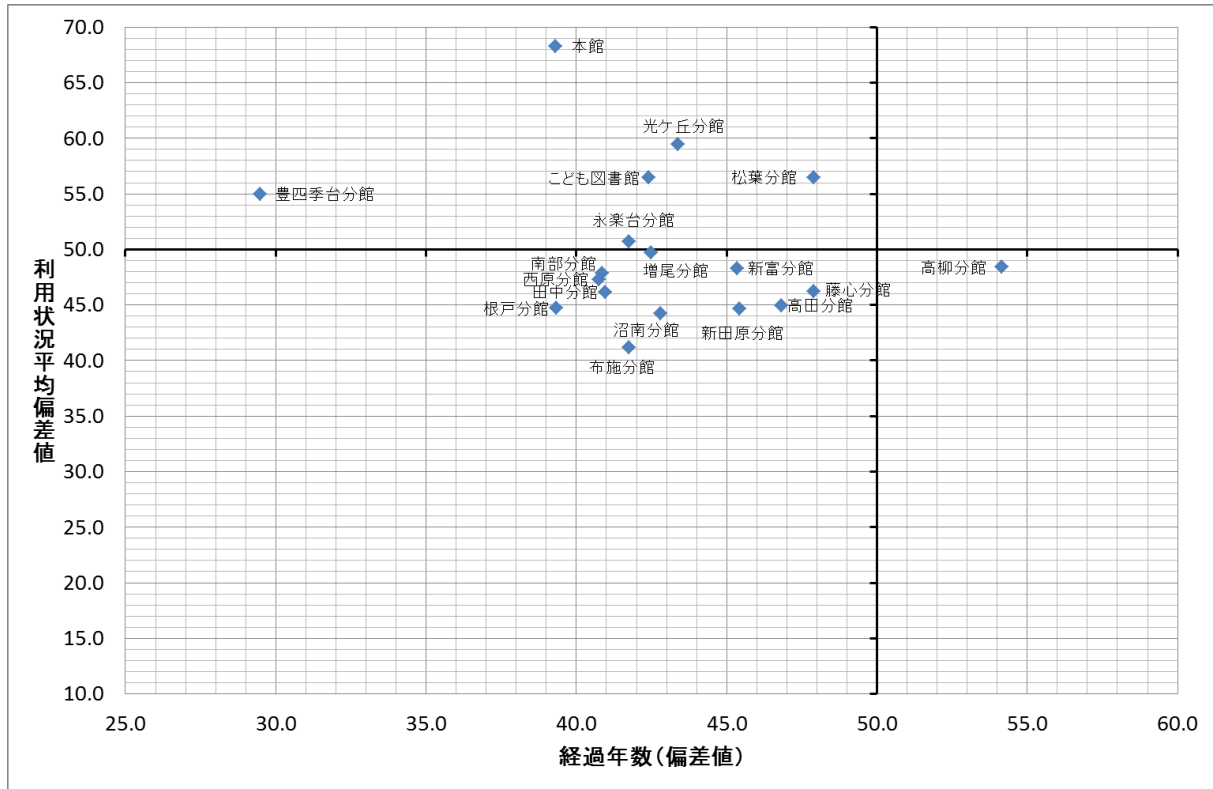


図 36 図書館の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

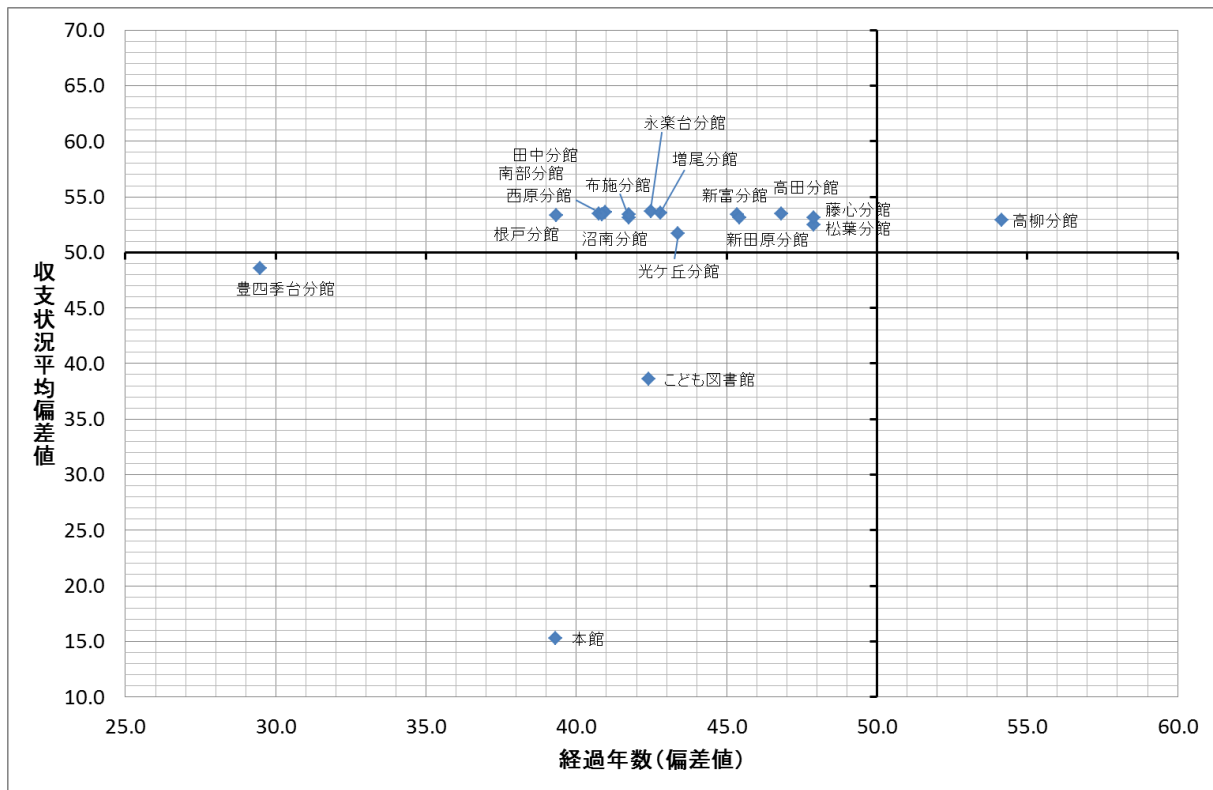


図 37 図書館の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析（全体）

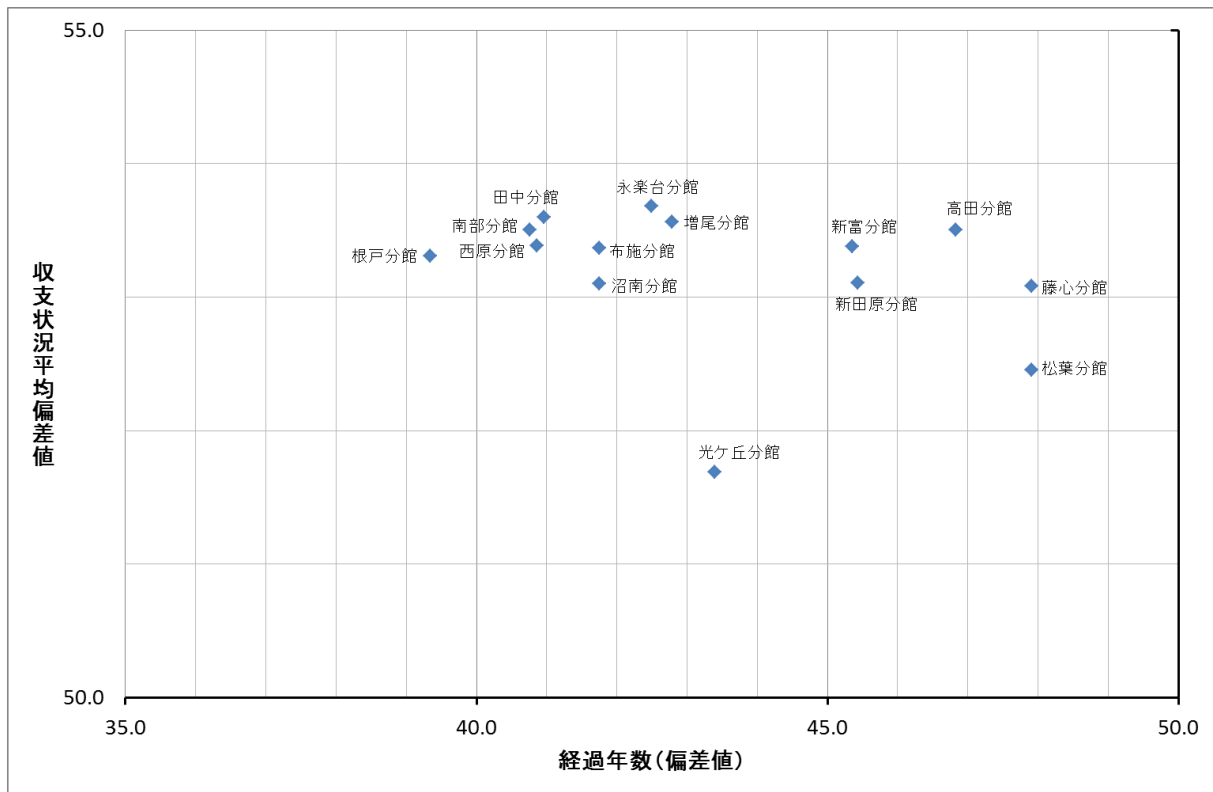


図 38 図書館の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析（中央拡大）

(2) 公民館

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 公民館は、市内に中央公民館があります。 公民館は、市民のために実際の生活に即する教育、学術及び文化に関する各種事業を行い、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興及び社会福祉の増進に寄与するために設置されました。 平成 28 年 4 月 1 日をもって、旧沼南公民館が沼南近隣センターに移行したことから、現状やニーズの変化にあわせて施設のあり方を検討する必要があります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 中央公民館を含む教育福祉会館の耐震補強工事（平成 30～31 年度施工予定）にあわせ、施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を見直します。特に、利用率の低下が著しく、将来にわたり改善の見込みがない諸室や機能は、廃止を含めた検討を行います。 日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 公民館事業を各近隣センターで実施するなど、他の集会施設との機能連携を進めます。 	
第 1 期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○耐震補強工事にあわせ、施設のあり方を見直します。 ○他の集会施設との機能連携を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な保全により、長寿命化を図ります。

(3) 博物館等（文化財、資料展示室）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 博物館等は、市内に3施設あり、文化財と資料展示室に分類されます。 文化財は、柏市内にある文化的所産であり、旧手賀教会堂は現存する首都圏内の教会堂としては最古の施設となっています。 資料展示室は、郷土資料展示室があり、市民に「郷土かしわ」への興味と理解を深めてもらうため、本市に関する文化財資料、歴史資料などのほか、美術品等を展示しています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 文化財は、文化財保護の観点から日常的な点検や定期的な修繕を行い、長寿命化を図ります。また、集客力の向上など有効活用を図ります。 郷土資料展示室は、利用状況の向上に努めます。利用状況が著しく低く改善が見込まれない場合は、廃止を含めた見直しを行います。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○郷土資料展示室は、利用状況の向上を図ります。 ○郷土資料展示室は、利用状況が著しく低く改善が見込まれない場合は、廃止を含めた見直しを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財は、長寿命化を図ります。

(4) その他社会教育施設（少年補導センター）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 少年補導センターは、青少年非行防止活動の拠点事務所として設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 耐用年数を見据えながら、施設の再整備（移転）の方策を検討します。他の公共施設との複合化や民間施設・資金の活用を検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の再整備（移転）の方策を検討します。

4-1-3 スポーツ・レクリエーション施設

(1) スポーツ施設（体育館、運動場、市民プール、庭球場）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設は、屋内施設が5施設、屋外施設が12施設あり、体育館、運動場、市民プール、庭球場及びその他に分類されます。 昭和40年代から50年代に建設された施設を中心に老朽化が進んでおり、利用者の安全性確保・機能性維持に支障が出ている箇所は、修繕等が必要です。 恒常的に利用率が低くなっている施設、土日やイベント時には稼働率が高いものの平日はあまり利用されていない施設、季節に利用が集中する施設などが存在し、期間、時間に関係なく稼働率を高めていく運営上の工夫が望まれます。 受益者負担の観点から、利用料金を見直していく必要があります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 各施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を見直し、再編を進めます。この中で、学校や近隣センターの体育施設など他の公共施設との機能連携を検討します。また、民間事業者等で実施可能な事業は、民営化します。特に、利用率の低下が著しく、将来にわたり改善の見込みがない施設や機能は、廃止を含めた検討を行います。施設の再編にあわせて、借地の解消を図ります。 体育館は、当面は現在の2館体制を存続します。ただし、弓道場や相撲場など競技人口が比較的少ない種目で利用率が低下している施設は、市のスポーツ施策や利用団体の意向も踏まえながら、そのあり方を検討します。 運動場は、利用率が低い施設や機能もあることから、集約化や廃止を含めた見直しを進めます。 市民プールは、利用期間が短いことや民間施設に代替が可能なことから、中長期的には廃止の方向で検討します。 庭球場は、比較的利用率が高いことから、民間事業者への移行等を検討します。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 受益者負担の適正化を進めます。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○各施設のあり方を見直し、再編を進めます。特に、「施設白書編」のポートフォリオ分析（相対比較）結果において、老朽化が進み、かつ、利用が少ない又はコストが高いと判断される施設を中心に検討を進めます。 ○利用料金を見直します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存続させる施設は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

(i) スポーツ施設（屋内）

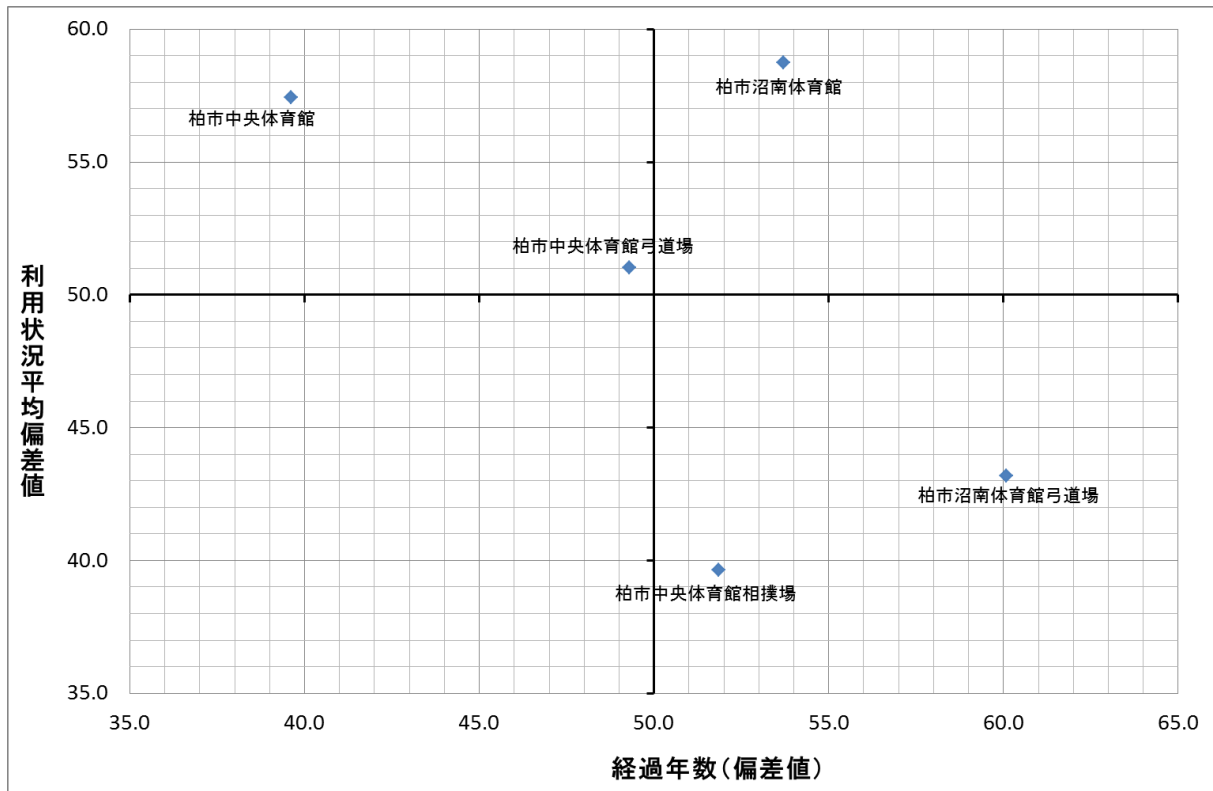


図 39 スポーツ施設（屋内）の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

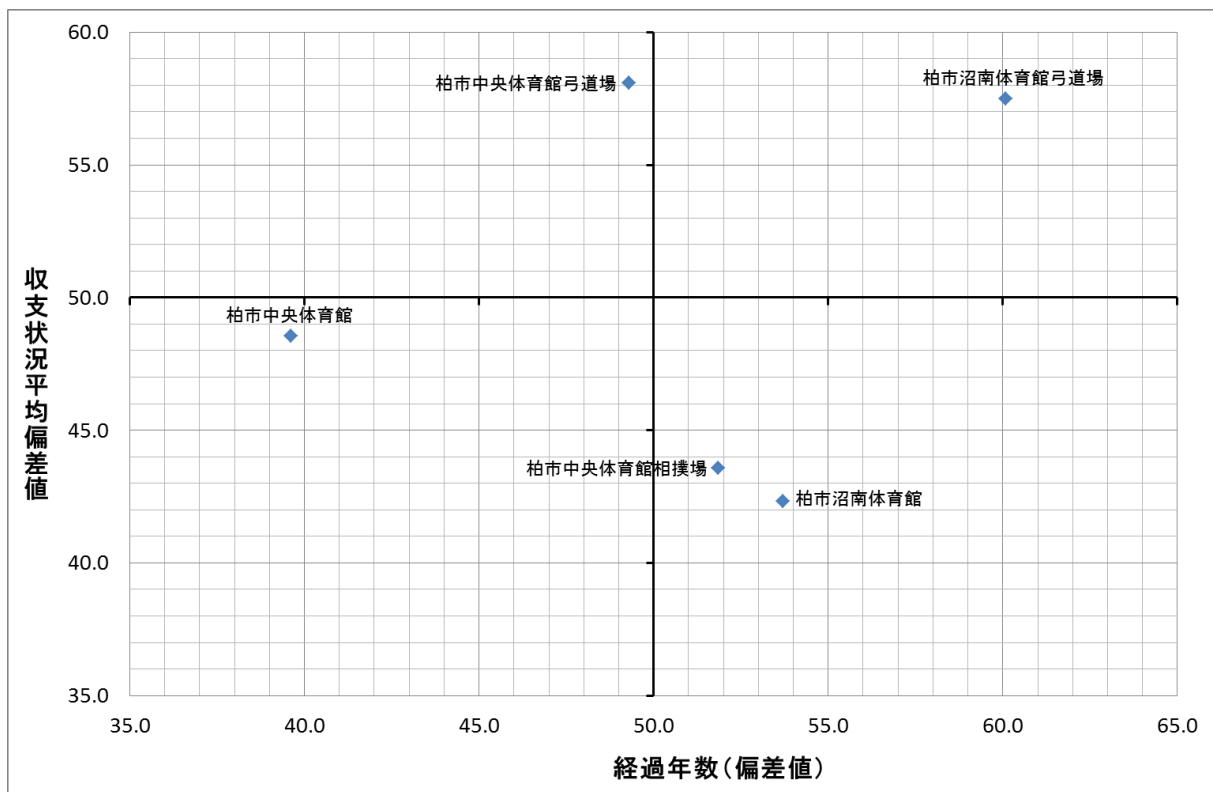


図 40 スポーツ施設（屋内）の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(ii) スポーツ施設（屋外）

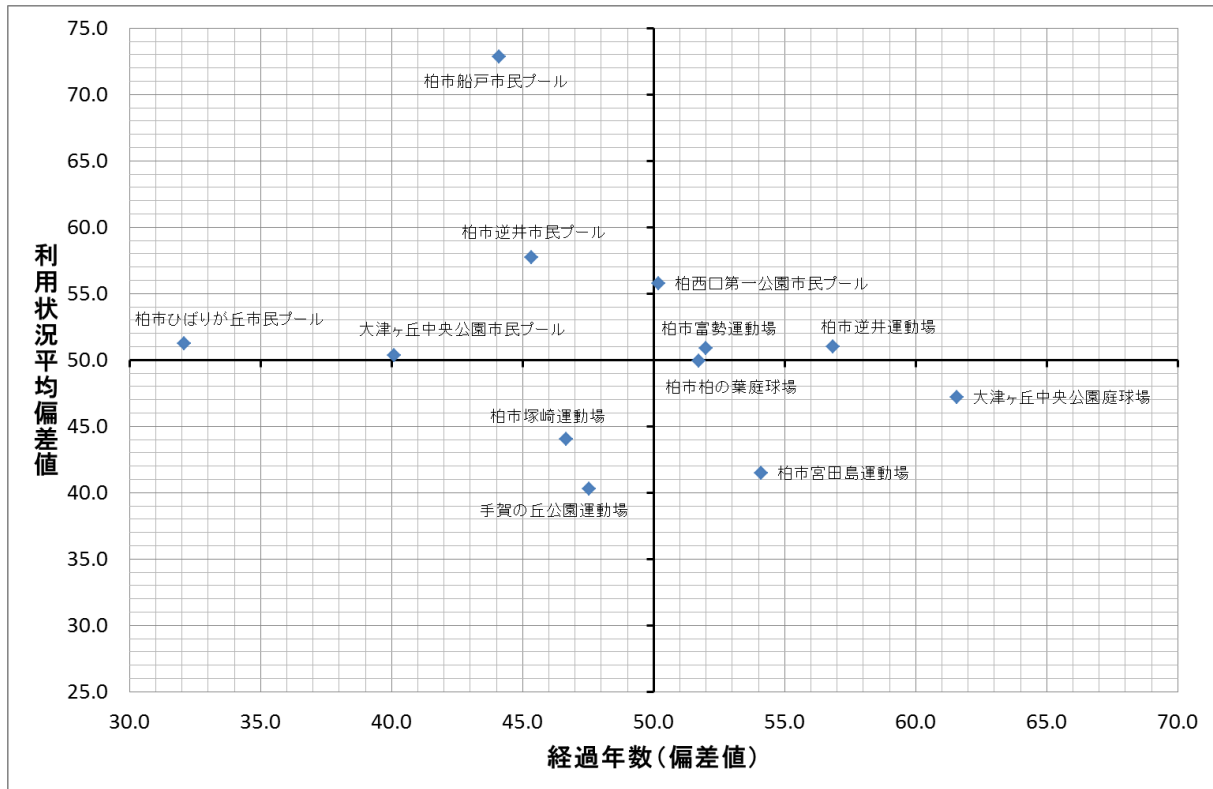


図 41 スポーツ施設（屋外）の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

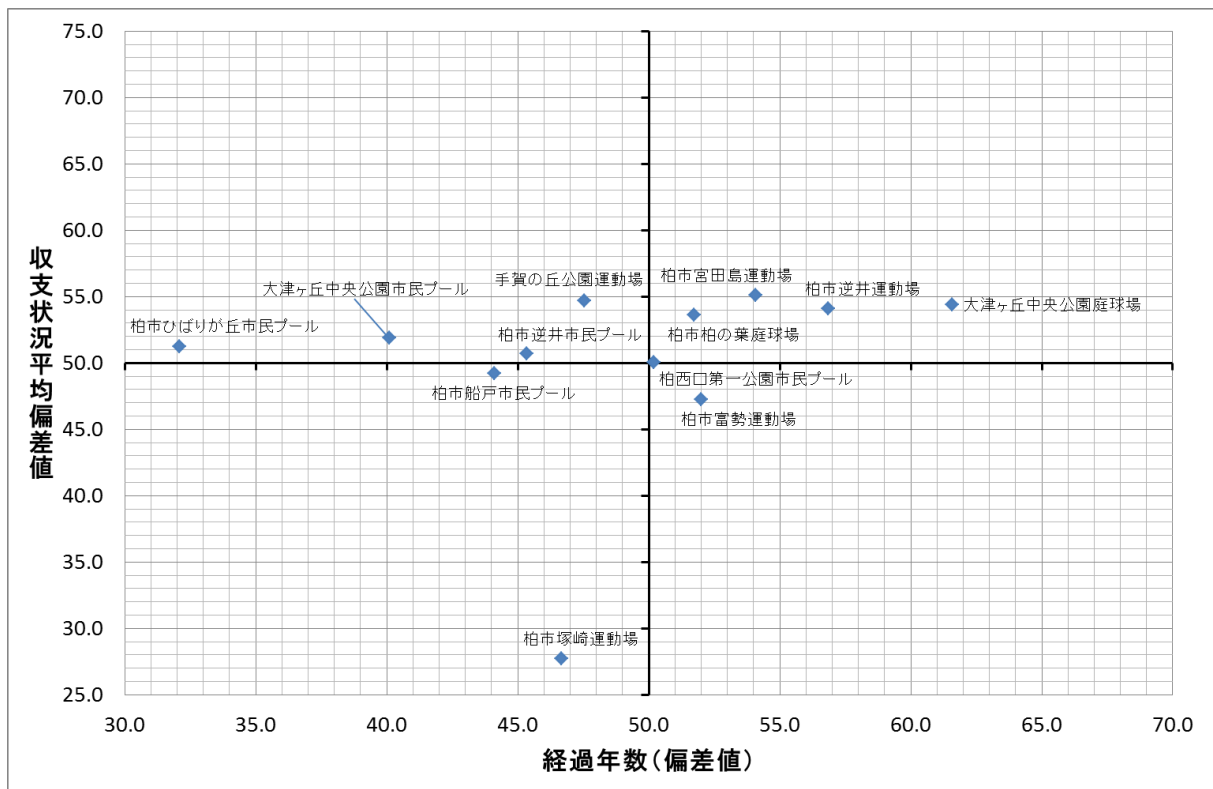


図 42 スポーツ施設（屋外）の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(2) レクリエーション施設（青少年センター）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 青少年センターは、青少年教育の振興及び青少年の健全育成を図るため、青少年や健全育成団体を対象に、研修室や野外活動のできる環境を提供し、体験活動等の機会を与えるための施設として設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 稼働率が低いことから、施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）について、廃止を含めた見直しを進めます。この中で、類似施設との集約化や他の公共施設との複合化、施設規模の縮減（ダウンサイジング）なども検討します。 当面は、複合的な施設利用による利用率の向上や一部施設の有償貸付等による財源の確保など管理運営の見直しを行います。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○施設のあり方を見直します。 ○複合的な施設利用を進めます。 ○一部施設の有償貸付等を検討します。 	

4-1-4 産業系施設

(1) 産業系施設（農業公園，都市農業センター）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 産業系施設は，市内にあけぼの山農業公園と都市農業センター（道の駅しょうなん）の2施設があります。 あけぼの山農業公園は，開園から22年が経過したことから，施設の老朽化に伴う園内設備の撤去等により，来場者数が減少しています。 都市農業センターの年間利用者数は，年間120万人程度で推移していますが，建設当初想定60万人を大きく上回り，慢性的な駐車場不足や施設内の混雑が生じています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> あけぼの山農業公園は，隣接するあけぼの山公園と合わせて，地域と連携しながら，あり方（必要な機能，規模及び配置など）を見直します。また，運営の工夫や民間連携の推進などにより，魅力あるサービス提供し，集客力の向上を図ります。 都市農業センターは，情報発信機能及び地域振興機能を高めるため，民間とも連携しつつ施設の整備を進めるとともに，民間による管理運営を行い，手賀沼周辺地域全体の振興拠点を目指します。 利用率の低下が著しく，将来にわたり改善の見込みがない諸室や機能は，廃止を含めた見直しを進めます。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○あけぼの山農業公園は，あり方を見直します。 ○都市農業センターは，民間と連携し，施設整備を進めます。また，自立経営できる管理運営を目指します。 	

4-1-5 学校教育系施設

(1) 学校（小学校、中学校、高等学校）

① 小学校及び中学校

施設の状況
<ul style="list-style-type: none"> • 小学校は42施設、中学校は20施設が整備されています。各施設の延床面積の合計は、小学校が約244,000㎡、中学校が約150,000㎡で、小中学校全体で市の保有する公共施設の過半を占めています。 • 保有施設のうち多くが高度経済成長期の児童生徒数の急激な増大に合わせ整備されており、一時的に大規模改修等が集中し、市の財政に大きな負担をかけることが予想されます。 • 平均築年数は34.3年となっており、老朽化が進んだ校舎と体育館が多く、長寿命化対応のため、維持補修及び大規模改修等の工事を計画的に実施する必要があります。 • 一定の教育環境を維持するために、12～24学級を学校適正規模としていますが、現在においても適正規模の範囲となっていない学校があります。また、市全体の将来人口は、およそ10年後をピークに減少すると見込まれていますが、地域によって増減傾向が異なることから、各学校の児童生徒数の動向に留意する必要があります。 • 市全体では、児童生徒数がピーク時よりも大幅に減少しているにもかかわらず、校舎の面積はおおむねピーク時と同じとなっています。当時と比較して少人数教育の導入や、多様な学習環境の整備が必要になっていることから、一概には言い難いものの、施設によっては一定の余裕空間が存在すると考えられるため、こうしたスペースの有効活用が求められます。これまでも、子育て支援施設等との複合化・多機能化を実現していますが、将来的に見込まれる児童生徒数の減少期には、さらなる取組を推進することが求められます。 • 多くの学校プールは老朽化が進んでおり、今後大規模改修が必要となります。学校プールの利用状況は、夏季の一時期のみであるため、全ての学校プールを維持することについて検討する必要があります。
施設管理の方向性
<ul style="list-style-type: none"> • 児童生徒数の減少により、学校適正規模を下回り一定の教育環境を維持できない場合には「柏市立小学校及び中学校の適正配置に関する基本方針」に基づき、隣接校との集約化（統合）や学校施設の大規模改修等に合わせた減築を行います。 • 存続させる施設については、日常的な点検や維持保全に加え、中長期的な計画に基づく大規模改修等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 • 施設構造等により長寿命化に適さない場合は、建替えを行います。あわせて、児童生徒数の動向や教育に必要な機能を精査し、学校の適正規模を維持し、規模の縮減（ダウンサイジング）も検討します。 • 大規模改修や建替え等の機会を捉え、市の全体方針である複合化の推進に向け、学校施設の有効活用を図ります。複合化を行う場合は、教育環境に支障のないことを第一に、施設用途の選定、安全性の確保、円滑な動線確保等を慎重に検討します。また、学校教育と社会教育の連携や地域との交流など、相乗効果を期待できる施設機能の導入を検討します。 • 給食室は、給食サービスの提供のあり方や効率的な運営方式を、学校給食センターと合わせて検討します。 • 学校プールは、維持、隣接校との集約化、民間プールの利用等あり方を検討します。

第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○適正規模に満たない小規模校のうち、単学級以下の学校（小学校4校，中学校1校）を対象に，隣接校との集約化（統合）等を含めた適正配置の検討を優先的に進めます。 ○モデル校において，効果的，効率的な長寿命化に向けた検討を進めます。あわせて，複合化も検討します。 ○給食室は，学校給食センターと合わせてあり方を検討します。 ○学校プールのあり方を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒数の動向を踏まえながら，適正規模の実現を図ります。 ○存続させる施設については，計画的な保全により，長寿命化を図ります。 ○施設構造等により長寿命化に適さない場合は，建替えの検討を進めます。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

(i) 小学校

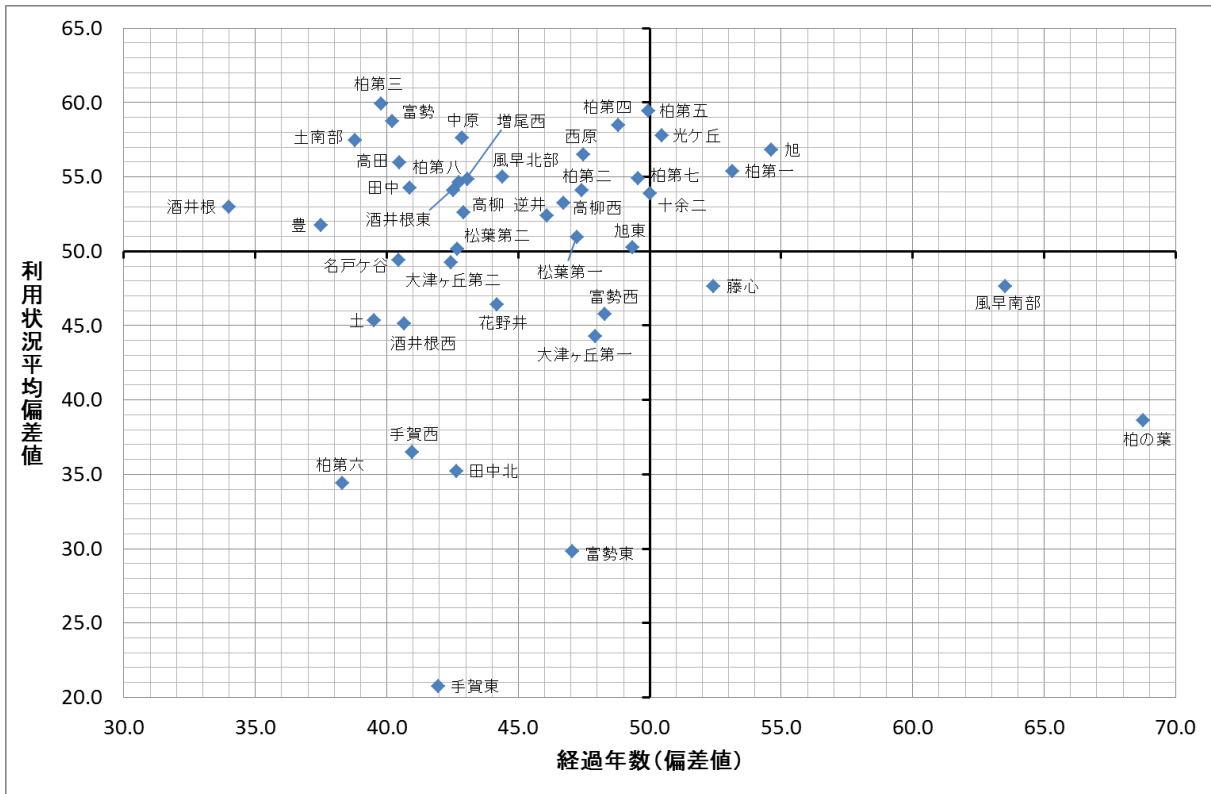


図 43 小学校の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

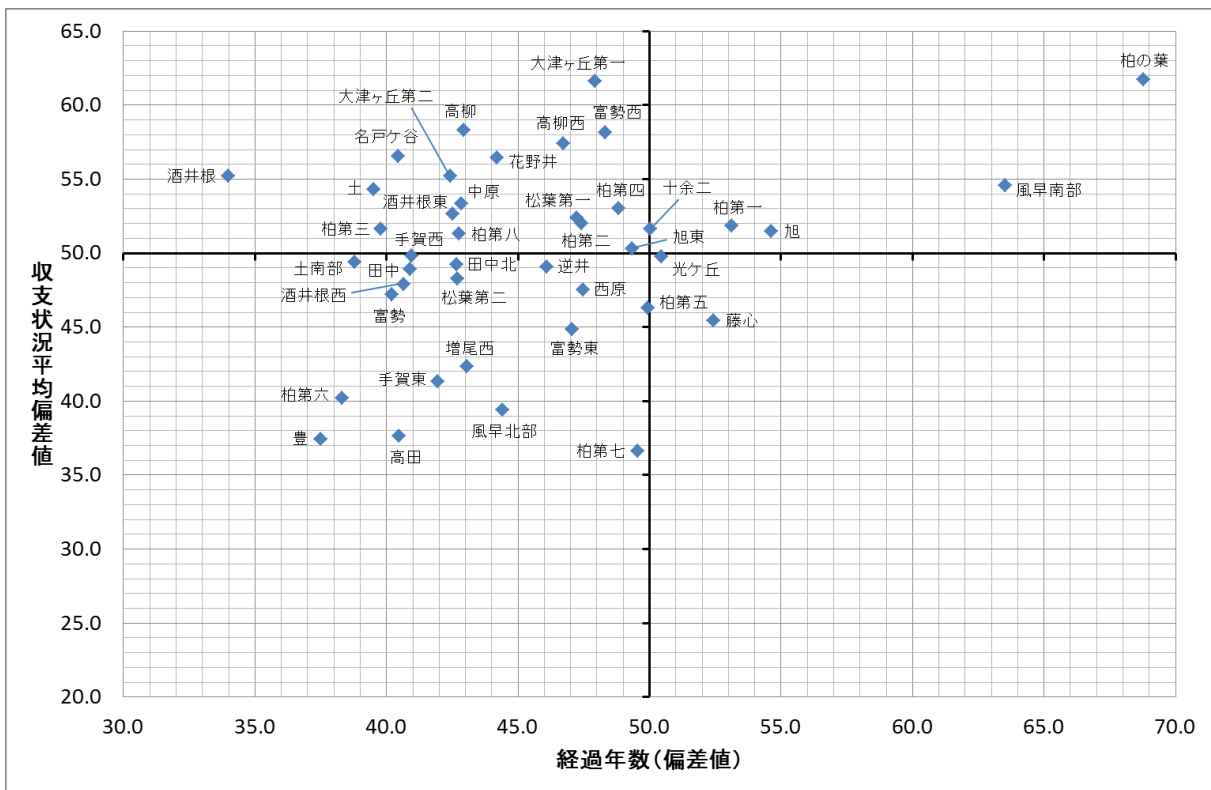


図 44 小学校の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(ii) 中学校

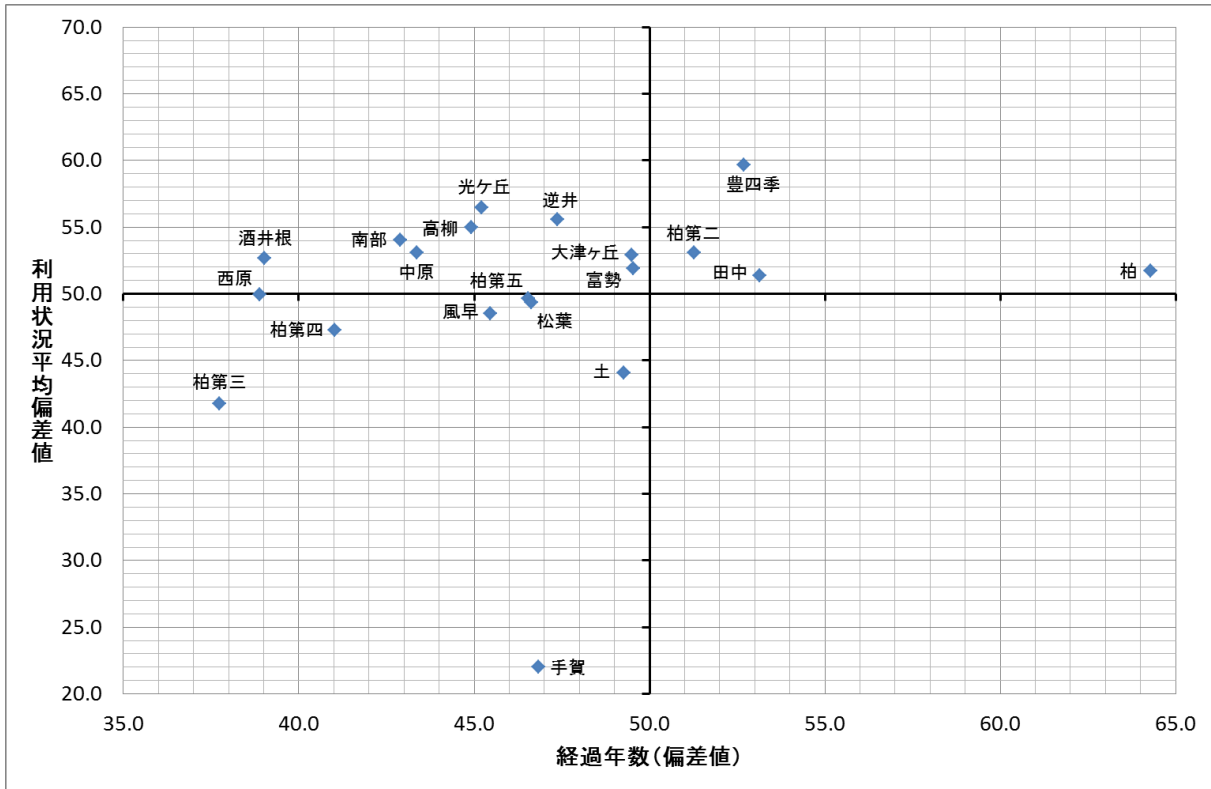


図 45 中学校の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

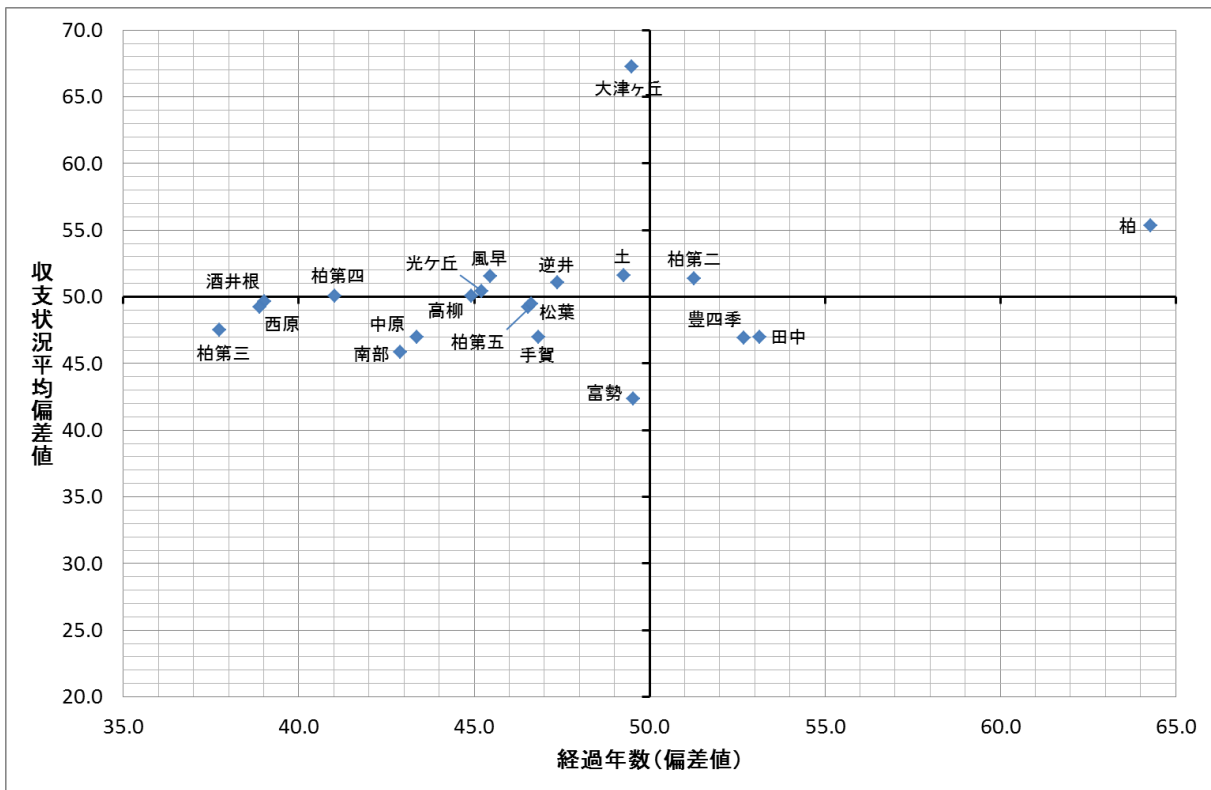


図 46 中学校の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

② 高等学校

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 市内には、市立高等学校が1校あります。 市立柏高等学校は、急激な都市化の進展・人口の増加に伴い、市内の教育環境充実・教育機会均等の実現を目的に、千葉県内で8番目の市立高等学校として設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 中長期的な生徒数の減少見込みを踏まえ、今後の市立高等学校のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を検討します。 存続させる建物については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○今後のあり方を検討します。	○存続させる建物は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

(2) その他教育施設(教育支援室, 学校給食センター)

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> その他教育施設は、教育支援室と学校給食センターの2施設があります。 教育支援室は、教育に関する相談業務と、不登校児童生徒の復帰支援を行っています。 学校給食センターは、旧沼南町域内の小中学校に通う児童及び生徒に対し、給食を実施するため設置されました。現在は、小学校7校と中学校4校の計11校に給食を提供しています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 教育支援室は、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 学校給食センターは、施設の更新の時期を見据えて、給食サービスの提供のあり方や効率的な運営方式を、自校調理方式の小中学校（給食室）と合わせて検討します。当面は、安心・安全な給食を安定して提供するための改修工事を実施します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○学校給食センターは、小中学校（給食室）と合わせてあり方を検討します。 ○当面必要となる施設・設備の改修工事を実施します。	○教育支援室は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

4-1-6 子育て支援施設

(1) 保育園

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 市内に23施設あります。 老朽化した施設が多く、対応が求められています。 保育需要は増加しており、需要に見合ったサービス量を確保する必要があります。ただし、中長期的には、幼少人口の減少に伴い、保育需要も減少するものと見込まれます。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 保育需要の伸びに見合った必要なサービス量の確保については、私立保育園の整備により対応します。 中長期的には保育需要の減少が見込まれることから、地域ごとの保育需要や民間施設の整備状況、施設の老朽化の状況等を見据えながら、今後の公立保育園のあり方（公立保育園として必要な役割と機能、規模及び配置など）について、廃止や民間事業者への移行を含めて検討し、総量の縮減を図ります。あわせて、サービスの質の向上を図り、量と質の両面から最適化に努めます。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。あわせて、他の公共施設との複合化や施設規模の縮減（ダウンサイジング）なども検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○今後の児童数の推移や保育需要の見直しを分析し、待機児童の解消が可能となる保育量の安定的な確保を前提とし、今後の公立保育園のあり方を検討します。 ○検討に基づき、柏市の基本的な考え方（公立保育園の最適化に関する基本方針）をまとめます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○左記の事項を踏まえ、関係機関等からの意見聴取を行いながら、現状維持、役割の見直し、規模の縮小や統合などについての検討と具体的な計画の策定を行います。 ○存続させる施設については、計画的な保全により、機能の維持と一定の長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

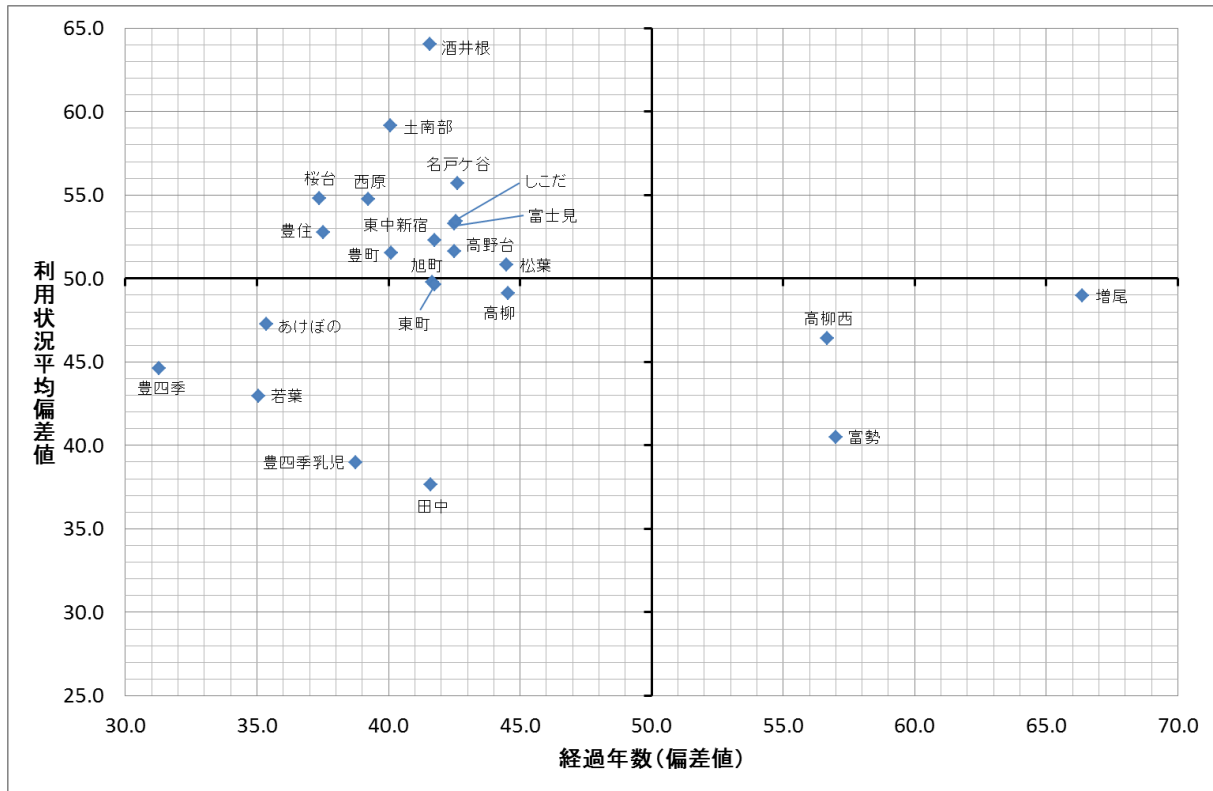


図 47 保育園の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

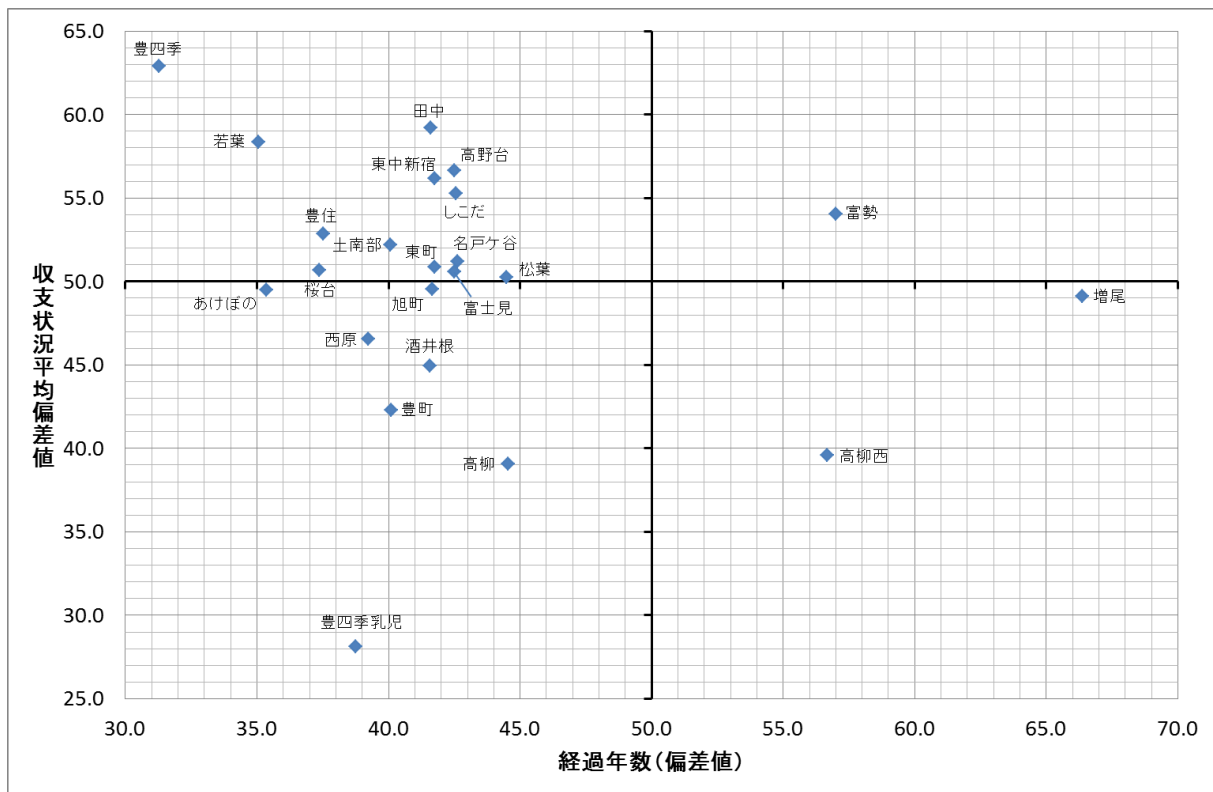


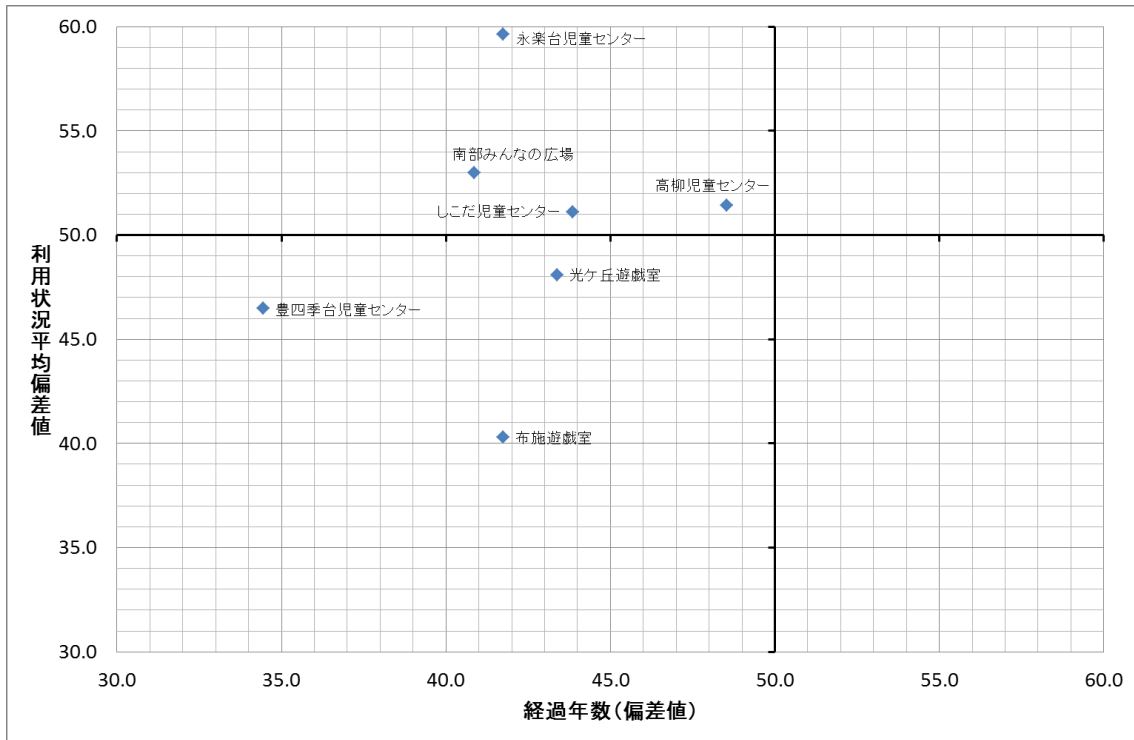
図 48 保育園の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(2) 幼児・児童施設（児童センター、こどもルーム、その他）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> • 幼児・児童施設は、市内に59施設あり、児童センター及びこどもルームに分類されます。 • 児童センターは、18歳未満のすべての子どもを対象に、遊びによる育成を援助するとともに、地域における子育て支援を行い、子どもが心身ともに健やかに成長することを目的に設置されました。 • 児童センターは、市内の配置バランスや施設の老朽化に対する対応を検討していく必要があります。 • こどもルームは、保護者が働いているなどの理由で、昼間帰宅しても保育する人がいない小学1年生から6年生までの児童を対象に、児童が安心して過ごせるよう見守るとともに、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るために設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> • 児童センター及び地域子育て支援拠点事業は、他の公共施設との複合化や民間施設の活用を検討します。また、老朽化が著しい旧光ヶ丘児童センターの建物は、除却します。 • こどもルームは、小学校の余裕教室の活用やリース建物の設置等により、需要の伸びに見合った必要なサービス量を確保します。 • いずれの施設も、中長期的には需要の減少が見込まれることから、耐用年数を見据えて、複合化（小学校の校舎内への移転等）や廃止を含めた施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を検討します。 • 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 • 小学生の放課後の居場所としての機能については、放課後子ども教室との連携を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども・子育て支援事業計画及び施設管理の方向性に基づき、地域子育て支援拠点の整備を進めます。 ○旧光ヶ丘児童センターの建物を除却します。 ○こどもルームは、当面需要に見合ったサービス量を確保します。 ○児童センター、こどもルーム及び放課後子ども教室の連携を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中長期的な需要の減少を見据えて、施設のあり方を検討します。特に、「施設白書編」のポートフォリオ分析（相対比較）結果において、老朽化が進み、かつ、利用が少ない又はコストが高いと判断される施設を中心に検討を進めます。 ○存続させる施設については、計画的な保全により、長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

(i) 児童センター



※休館中の光ヶ丘児童センターは、利用者数が発生していないため、分析から除外しています。

図 49 児童センターの品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

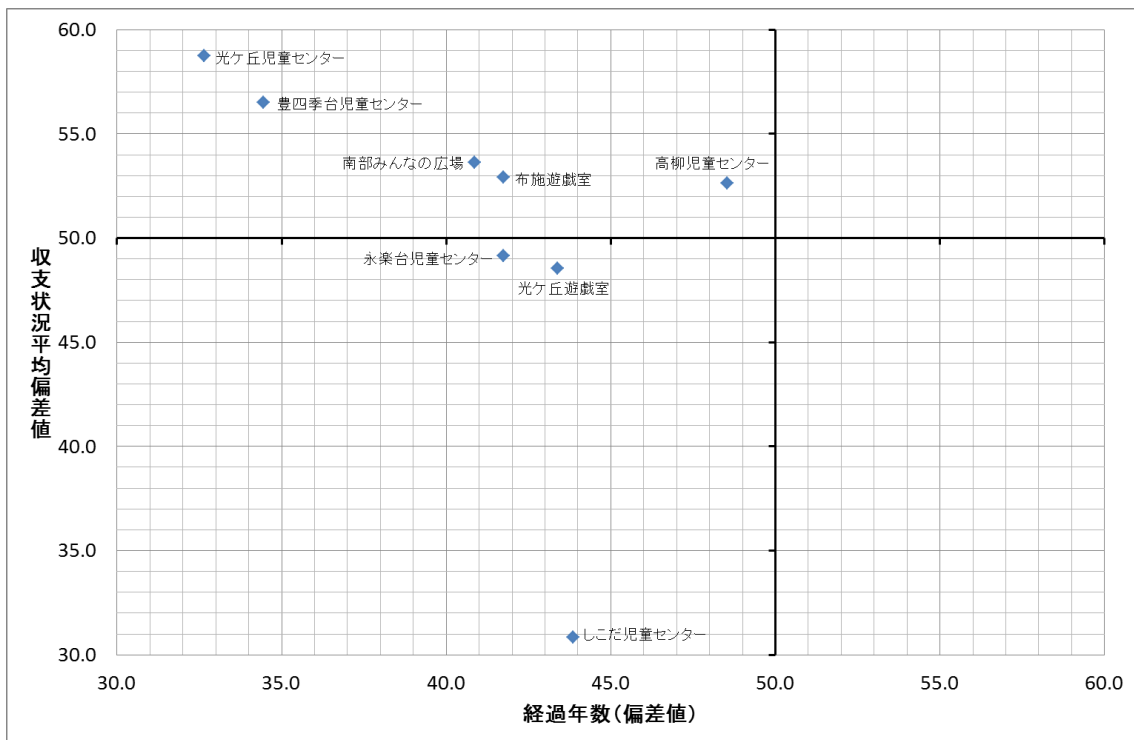


図 50 児童センターの品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(ii) こどもルーム

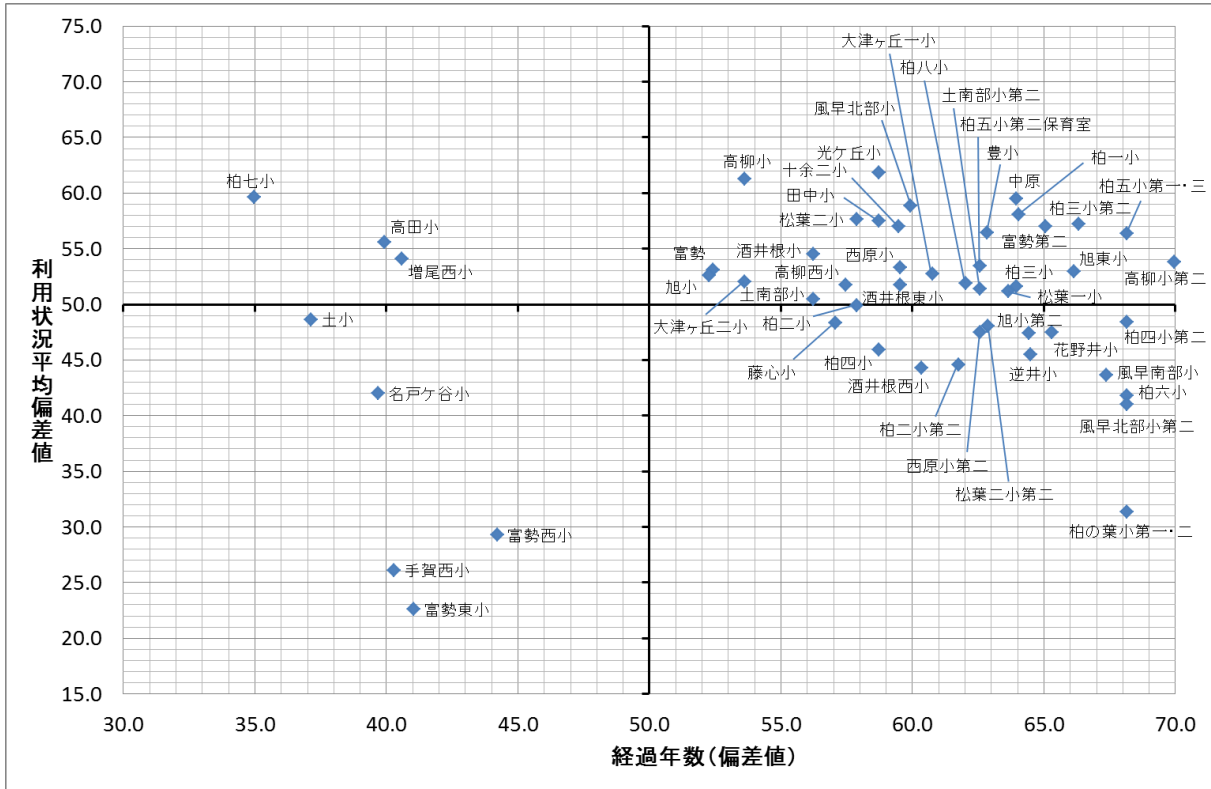


図 51 こどもルームの品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析（全体）

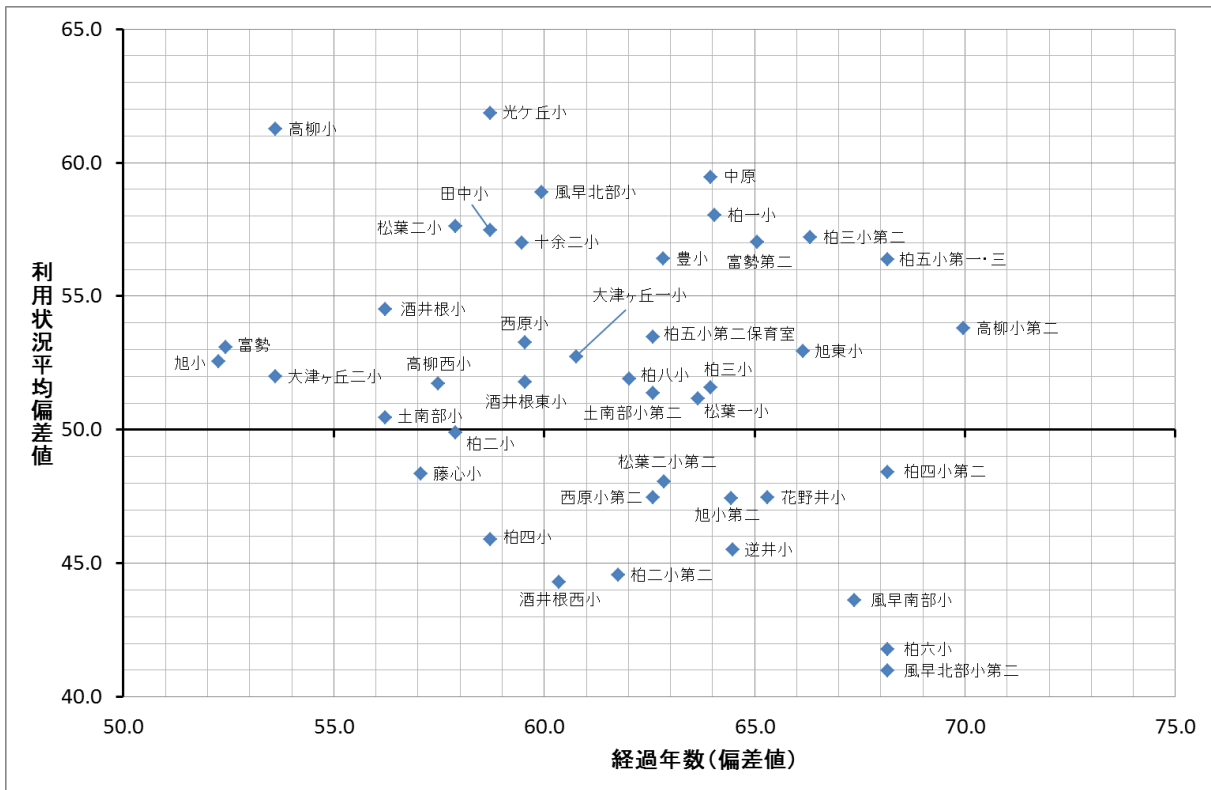


図 52 こどもルームの品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析（右上拡大）

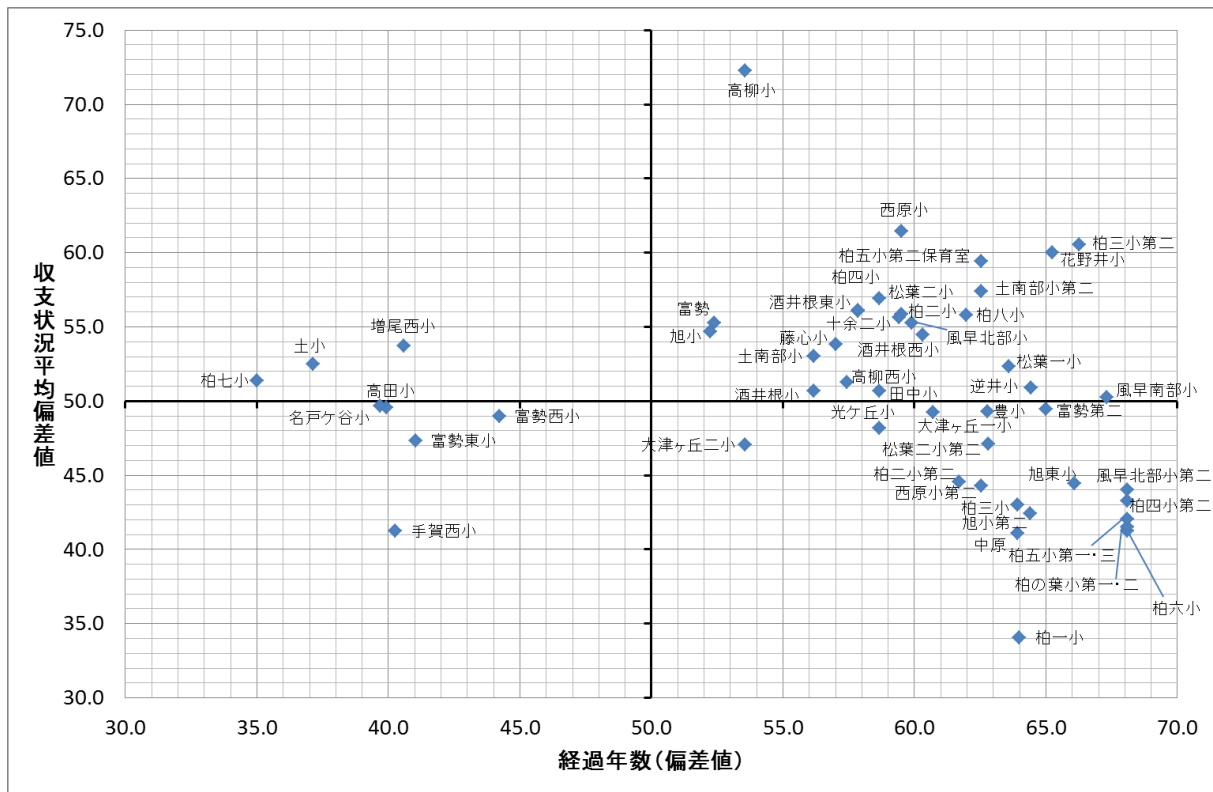


図 53 こどもルームの品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析（全体）

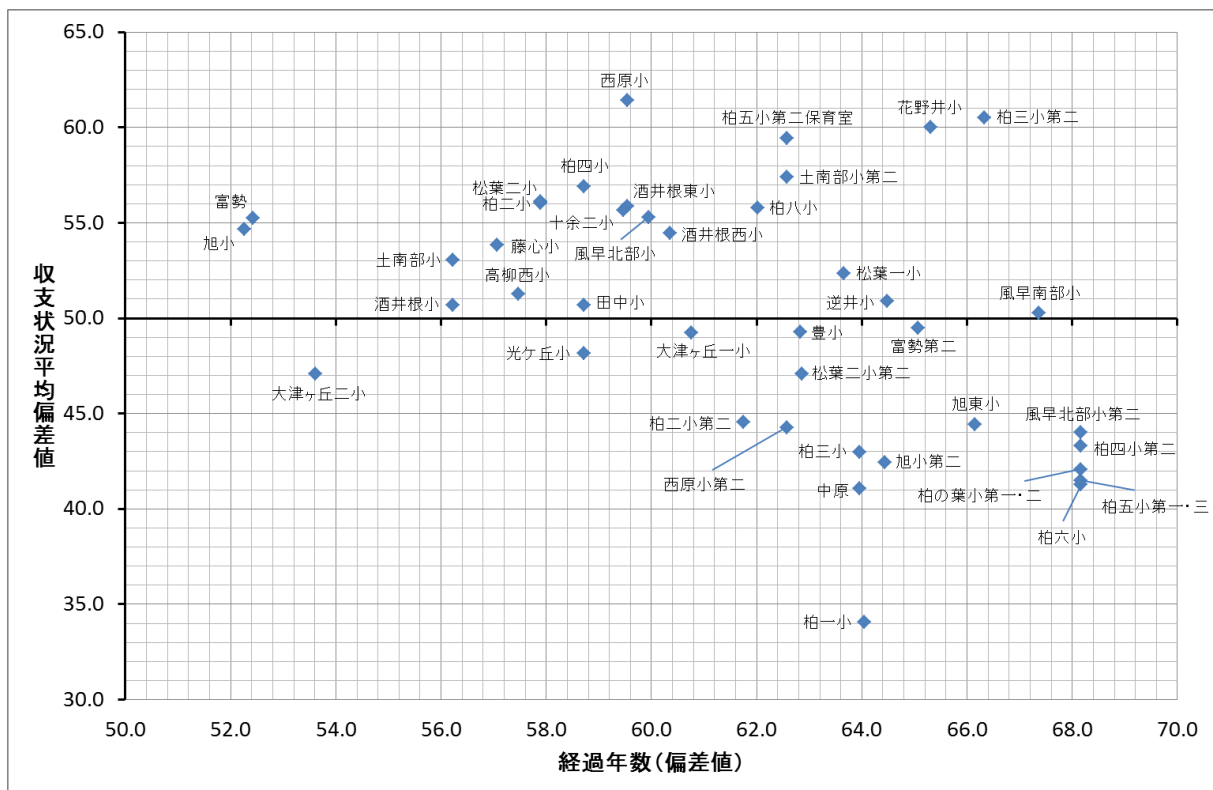


図 54 こどもルームの品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析（右下拡大）

(3) 幼児・児童福祉施設（こども発達センター）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> • 幼児・児童福祉施設は、市内（ウェルネス柏内）に3施設あります。 • こども発達センターは、発達に何らかの心配を持つ就学前の子どもと保護者に対し、子どもの状態に応じた適切な相談・支援を提供し、問題の改善や軽減を図ることを目的に設置されました。 • キッズルームひまわりは、知的障害や発達障害等の児童に対して、情緒の安定や遊びの広がり、生活習慣、社会性等の発達を促すために設置されました。 • キッズルームこすもすは、運動面に遅れがある児童に対して、療育と機能訓練を提供し、心身の発達を促すことを目的に設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> • こども発達センター（キッズルームひまわり、こすもすを含む）は、利用者の推移や民間事業所によるサービスの動向等を見据えながら、施設のあり方や各事業の運営手法を検討します。 • 存続させる施設については、総合保健医療福祉施設（ウェルネス柏）とあわせて、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○施設管理の方向性を踏まえ、各施設のあり方や運営手法を検討します。	○存続させる施設については、計画的な保全により、長寿命化を図ります。

4-1-7 保健・福祉施設

(1) 高齢者福祉施設（老人福祉センター、デイサービスセンター、老人いこいの家、介護予防センター、介護老人保健施設）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉施設は、市内に10施設あり、老人福祉センター、デイサービスセンター、老人いこいの家、介護予防センター、介護老人保健施設に分類されます。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センター及び介護予防センターは、耐用年数を見据えて、施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）を見直します。集約化や他の公共施設との複合化、廃止を含めた検討を進めます。 デイサービスセンターは、高齢人口の増加に伴う利用者の推移や地域のニーズ、民間施設等の動向等を踏まえ、民間への譲渡を含めて施設のあり方を見直します。 老人いこいの家は、廃止も含めて施設のあり方を見直します。 介護老人保健施設は、今後のあり方を検討します。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 老人福祉センターは、受益者負担の観点から一部施設の有料化を検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<p>○施設管理の方向性を踏まえ、各施設のあり方について検討を進めます。特に、「施設白書編」のポートフォリオ分析（相対比較）結果において、老朽化が進み、かつ、利用が少ない又はコストが高いと判断される施設を中心に検討を進めます。</p> <p>○老人福祉センターは、施設改修や機能の見直しにあわせて、一部施設の有料化を検討します。</p>	<p>○存続させる施設は、計画的な保全により長寿命化を図ります。</p>

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

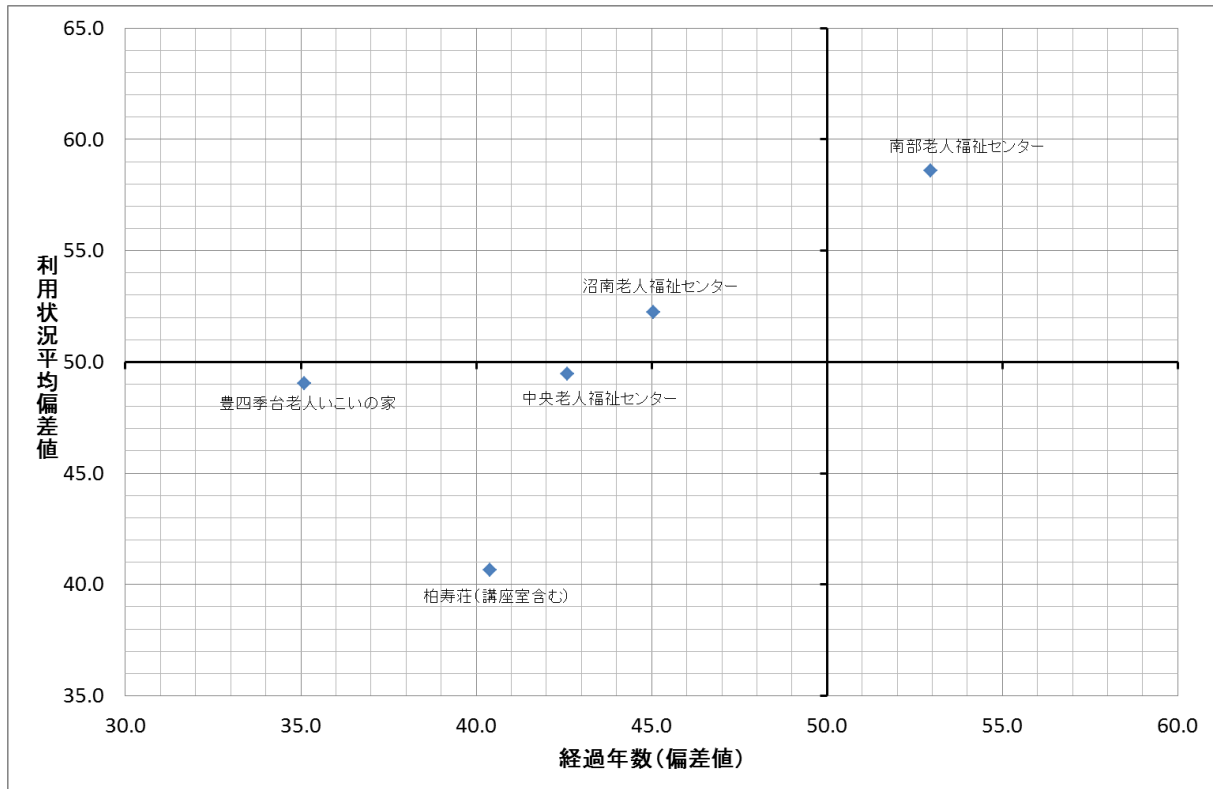


図 55 老人福祉センター・老人いこいの家の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

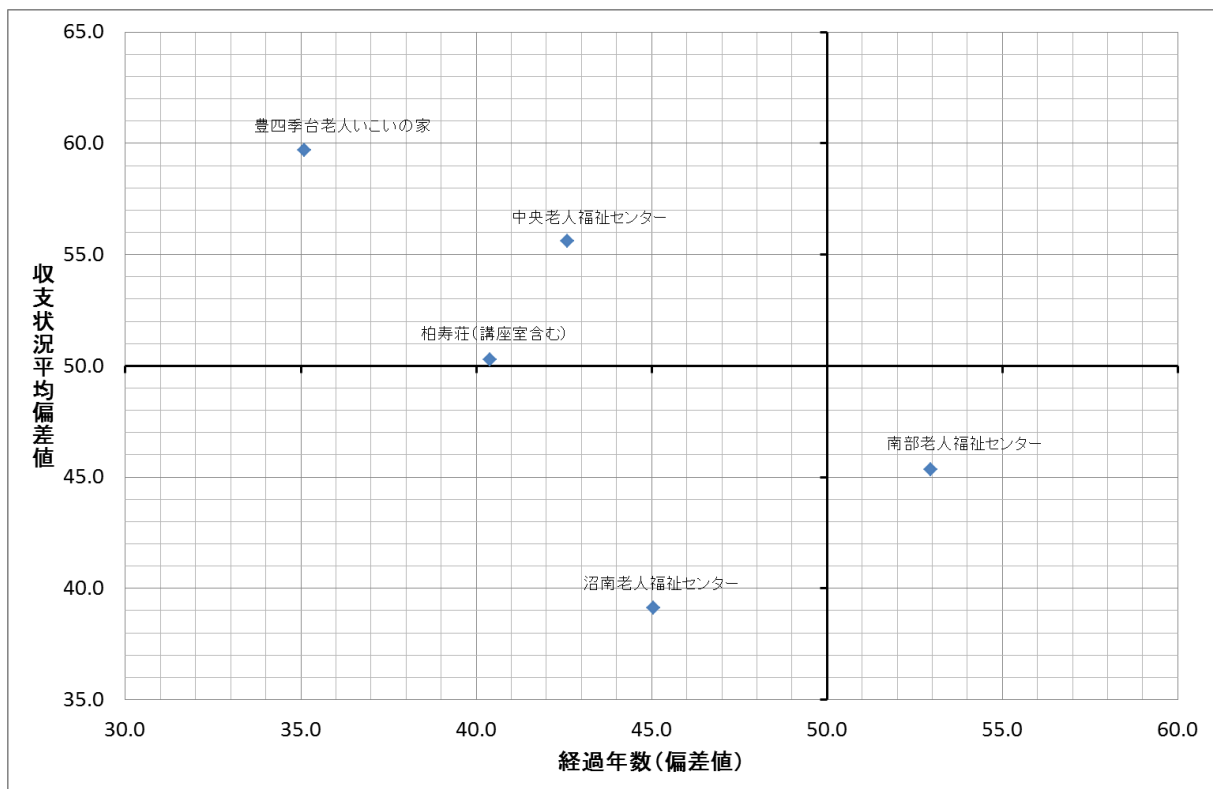


図 56 老人福祉センター・老人いこいの家の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(2) 障害者福祉施設（障害福祉サービス事務所，障害者福祉作業所，障害福祉就労支援センター，その他）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉施設は，市内に8施設あり，障害福祉サービス事業所（青和園及び朋生園），障害者福祉作業所（ひまわり園及び同陶芸室，美南園並びに旧障害福祉作業所（逆井）），障害福祉就労支援センター及びその他（柏市心身障害者福祉連絡協議会かしわっ葉）に分類されます。 築30年以上経過し，老朽化した施設もあり，バリアフリー化への対応やトイレ等の設備面での機能の向上が求められています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 青和園及び朋生園は，民間事業者によるサービスの動向を踏まえ，今後のあり方を検討します。 ひまわり園及び美南園は，現在も民間事業者が管理運営していることから，施設の移譲等も含めて施設のあり方（必要な機能，規模及び配置など）を検討します。 旧障害福祉作業所（逆井）は，建物の老朽化が激しく耐震性にも問題があるため，建物を除却して跡地の有効活用を図ります。 柏市障害福祉就労支援センター及び柏市心身障害者福祉連絡協議会かしわっ葉は，教育福祉会館の耐震改修工事にあわせて機能を見直します。特に，柏市障害福祉就労支援センターは，提供するサービスの内容を精査して民間委託等を検討します。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○施設管理の方向性を踏まえ，各施設のあり方や機能について検討を進めます。 ○旧障害福祉作業所（逆井）は，建物を除却します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。

(3) 保健施設（総合保健医療福祉施設，保健所，保健センター，動物愛護ふれあいセンター）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 総合保健医療福祉施設（ウェルネス柏）及び柏市保健所は，市民の健康及び児童福祉の向上を図るための拠点施設として整備されています。 保健センターは，中央保健センター及び沼南保健センターの2施設があります。 動物愛護ふれあいセンターは，犬や猫の保護収容施設として設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 総合保健医療福祉施設（ウェルネス柏），保健所及び動物愛護ふれあいセンターは，当面現状のまま存続します。 中央保健センター及び沼南保健センターは，利用率が低いことから，必要なサービス機能は維持しながら，多目的での利用が可能となるよう施設のあり方（必要な機能，規模及び配置など）を見直します。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○保健センターは，施設のあり方を見直します。	○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。

(4) 福祉施設（地域医療連携センター，地域生活支援センター，ボランティアセンター，地域福祉センター）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設は市内に4施設あり，地域医療連携センター，地域生活支援センター，ボランティアセンター及び地域福祉センターに分類されます。 柏市地域医療連携センターは，在宅医療と介護の連携を推進する施設として整備されています。 地域生活支援センターは，平成22年度にウェルネス柏に移転し現在に至ります。 ボランティアセンターは，ボランティアに関する支援や相談業務等を実施する場として社会福祉協議会が運営しています。建築後30年以上が経過しており，老朽化が進んでいます。 地域福祉センターは，ボランティア育成事業の実施や活動場所の提供を行う施設として整備されています。建築後30年以上が経過しており，老朽化が進んでいます。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療連携センター及び地域生活支援センターは，当面現状のまま存続します。 ボランティアセンター及び地域福祉センターは，教育福祉社会館の耐震工事にあわせて施設のあり方（必要な機能，規模及び配置など）を検討します。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○ボランティアセンター及び地域福祉センターは，施設のあり方を検討します。	○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。

4-1-8 医療施設

(1) 医療施設（医療センター，病院）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療施設は，市内に医療センター（総合保健医療福祉施設内）と市立柏病院の2施設があります。 医療センターは，柏市医師会，柏歯科医師会及び柏市薬剤師会の協力の下，一次の夜間急病診療事業，休日歯科診療事業及び特殊歯科診療事業を実施し，市民の初期救急医療及び歯科口腔医療を確保するために設置されました。 市立柏病院は，国から旧国立柏病院の有償譲渡を受け，公立病院に求められる不採算医療に取り組み，市民の健康維持・増進を図り，地域医療を確保するために設置されました。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 市立柏病院のあり方（役割，必要な機能及び規模など）については，柏市健康福祉審議会市立病院事業検討専門分科会を通じて検討を行います。 医療センターは，当面現状のまま存続します。総合保健医療福祉施設（ウェルネス柏）とあわせて，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○市立柏病院は，施設のあり方を検討します。	○医療センターは，計画的な保全により長寿命化を図ります。

4-1-9 行政系施設

(1) 庁舎等（庁舎、その他）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 庁舎は、本庁舎や分庁舎及び沼南庁舎が設置されており、また、市内各所に出張所が設置されています。その他は、柏市計量検査室、かしわインフォメーションセンター、文化財整理室、各種倉庫等が設置されています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 本庁舎、分庁舎及び沼南庁舎は、行政機能の中核を担う機能を有する施設であることから、当面現状のまま存続します。ただし、中長期的な施設のあり方（必要な機能、規模及び配置など）については、まちづくりの視点も踏まえて検討します。なお、沼南庁舎は、空きスペースの有効活用を図ります。 出張所は、マイナンバー制度の普及に伴い自宅からの様々な申請が可能となったり、コンビニエンスストアで住民票等の証明書が取得できるなど、市民サービスの利便性向上が見込まれることから、複合施設である近隣センターや支所機能とあわせて統廃合も視野に入れた施設のあり方を検討します。 その他の施設は、利用状況や市で所有する必要性を踏まえて、総量の抑制を図ります。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○本庁舎は、耐震改修工事を実施します。 ○沼南庁舎は、空きスペースの有効活用を図ります。 ○施設管理の方向性を踏まえ、各施設のあり方や機能について検討を進めます。特に、「施設白書編」のポートフォリオ分析（相対比較）結果において、老朽化が進み、かつ、利用が少ない又はコストが高いと判断される施設を中心に検討を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本庁舎、分庁舎及び沼南庁舎は、まちづくりの視点も踏まえて中長期的な施設のあり方を検討します。 ○存続させる施設は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

(i) 庁舎・出張所等

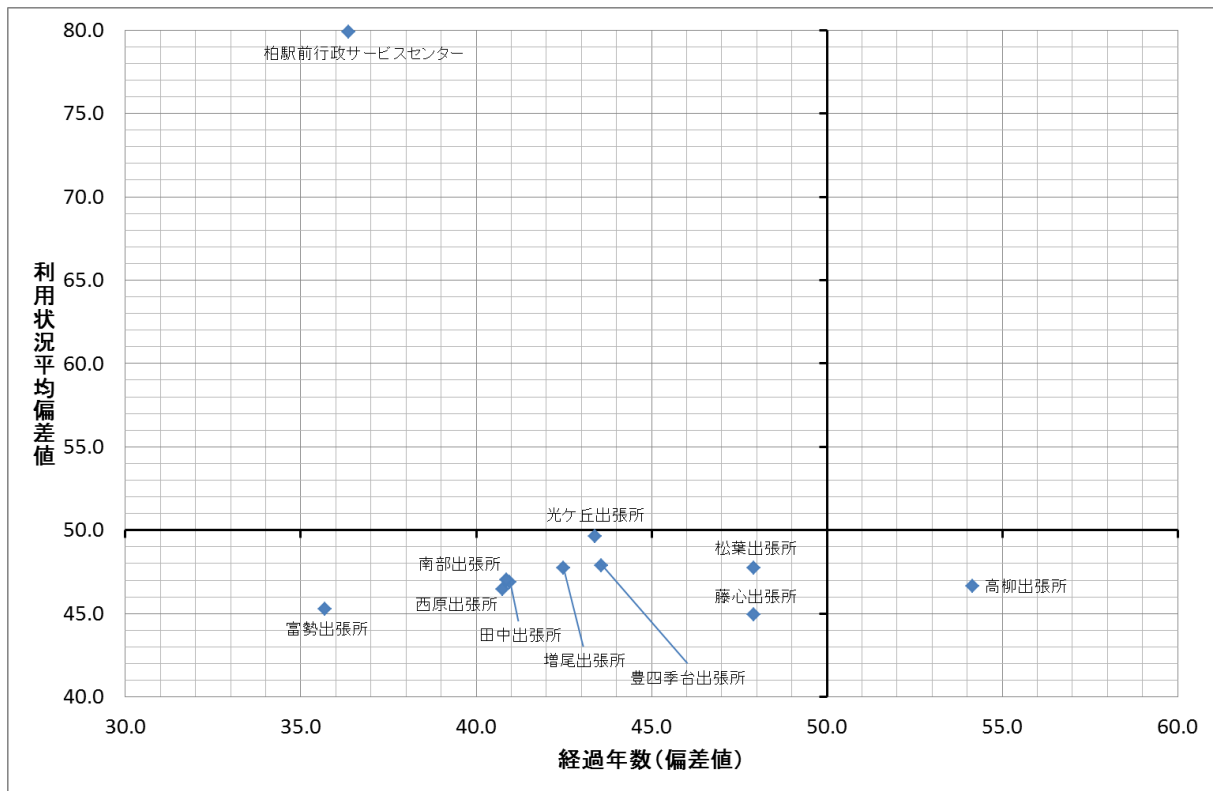


図 57 庁舎・出張所等の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

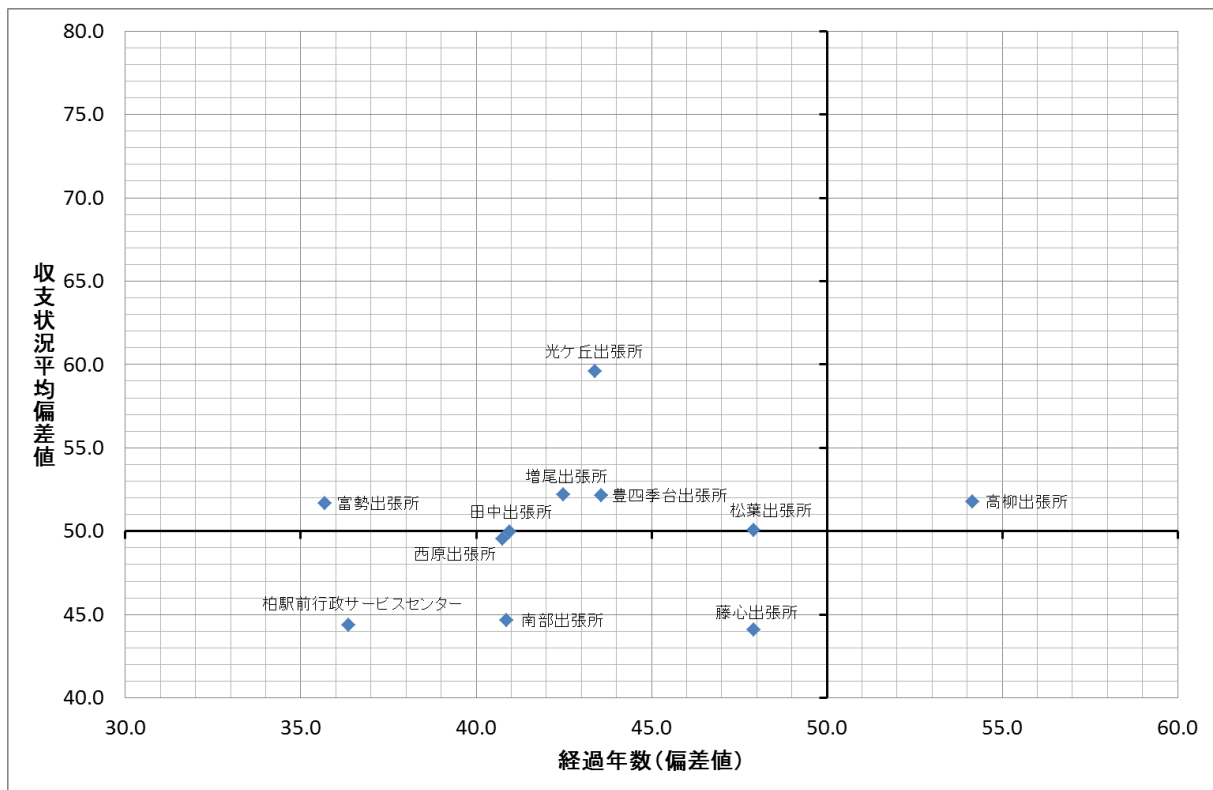


図 58 庁舎・出張所等の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(2) 消防施設（消防庁舎、消防団器具置場）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 消防署及び分署は、地域をくまなくカバーするように配置されています。一部の施設は建築後30年以上が経過しており、老朽化が進んでいます。 消防団器具置場は、各消防団ごとに設置されています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 消防署及び分署は、半径2.1kmを圏域とし、全市をカバーするように配置されています。これは設置基準を概ね満たすものであり、今後も現状の施設数を維持していく必要があります。移転を伴う建替えを検討する場合には、この圏域に十分配慮する必要があります。 消防団器具置場は、耐用年数を見据えて、施設ごとの整備の方向性を各消防団や地域住民と協議して定めます。この中で、集約化や施設規模の縮減（ダウンサイジング）なども検討します。 存続させる施設については、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 管理運営コストが高い施設について、コストの削減を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○消防団器具置場は、耐用年数を見据えて、施設ごとに整備の方向性を定めます。 ○管理運営コストの削減を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存続させる施設は、計画的な保全により長寿命化を図ります。

(3) 環境施設（清掃収集事務所，最終処分場）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 環境施設は，市内に4施設あり，清掃収集事務所と最終処分場に分類されます。 施設によっては老朽化が進行しており，対応が求められています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 「一般廃棄物処理基本計画」に基づき，適正なごみ処理の維持・改善に向けた施設のあり方（必要な機能，規模及び配置など）を検討し，整備を図ります。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 最終処分場は，廃止に向けた処理施設の適正な運転管理を行っていきます。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○施設のあり方を検討し，整備を図ります。	○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。 ○最終処分場は，廃止に向けた処理施設の適正な運転管理を行っていきます。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

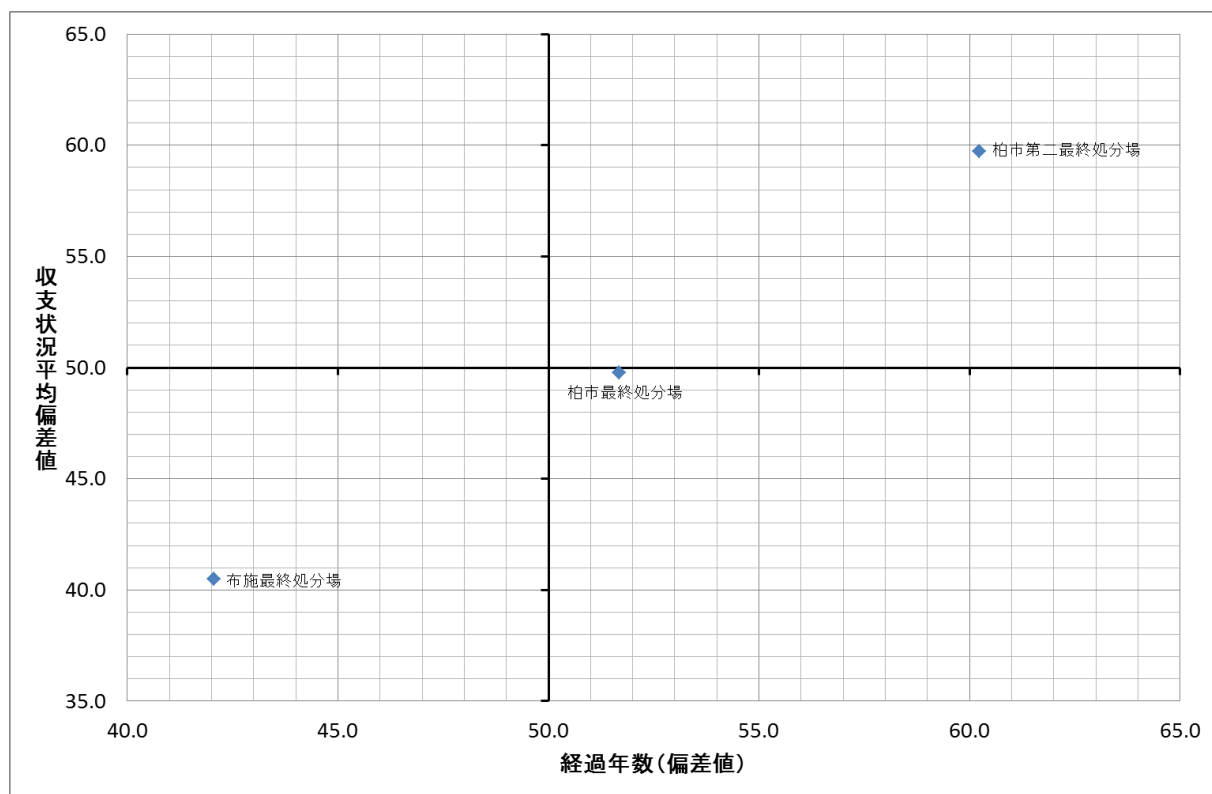


図 59 環境施設の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

(4) 防災施設（防災会館、防災備蓄倉庫）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 増尾台防災会館は、旧東部消防署増尾分署であり、1階部分及び2階部分の一部は防災備蓄倉庫として、2階部分の一部は地域住民が集い交流を深める地域コミュニティ施設として利用されています。 地域防災の備えとして、食料や生活必需品、防災資機材が備蓄されている倉庫で、柏市内に44箇所（施設内の併設倉庫や、学校内空き教室利用の教室倉庫も含む）あります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 増尾台防災会館の地域コミュニティ施設としての機能は、更新時期を見据えて廃止に向けた検討を進めます。 防災備蓄倉庫は、必要な収容スペースの確保のための整備を進めます。今後整備する防災備蓄倉庫は、単独施設ではなく、複合化（学校の余裕教室利用など）を進め、施設整備に係るコストの縮減及び維持管理の効率化を図ります。また、既存の単独防災備蓄倉庫は、集約化を進めます。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○柏の葉中学校及び篠籠田防災公園の敷地内に、新規防災備蓄倉庫を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ○増尾台防災会館の地域コミュニティ施設としての機能は、更新時期を見据えて廃止に向けた検討を進めます。 ○既存単独倉庫の集約化を進めます。

4-1-10 公営住宅

(1) 公営住宅（市営住宅）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 公営住宅は，市内に10施設あります。老朽化が進む施設も複数あります。 エレベーターがなく，バリアフリーの観点で課題がある施設や，間取りが現在の住宅事情にそぐわない施設も複数あります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が著しい施設は，建替えを前提とせず，耐用年数を見据えて廃止に向けた検討を行います。施設の廃止にあたっては，空き家を含めた民間施設の活用や家賃補助など，ソフト面の施策も合わせて検討します。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○「施設白書編」のポートフォリオ分析（相对比较）結果を踏まえ，築40年以上が経過している4施設については，廃止に向けて段階的に着手します。 ○あわせて，空き家を含めた民間施設の活用や家賃補助なども検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。 ○その他の施設は，耐用年数を見据えて廃止に向けた検討を行います。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

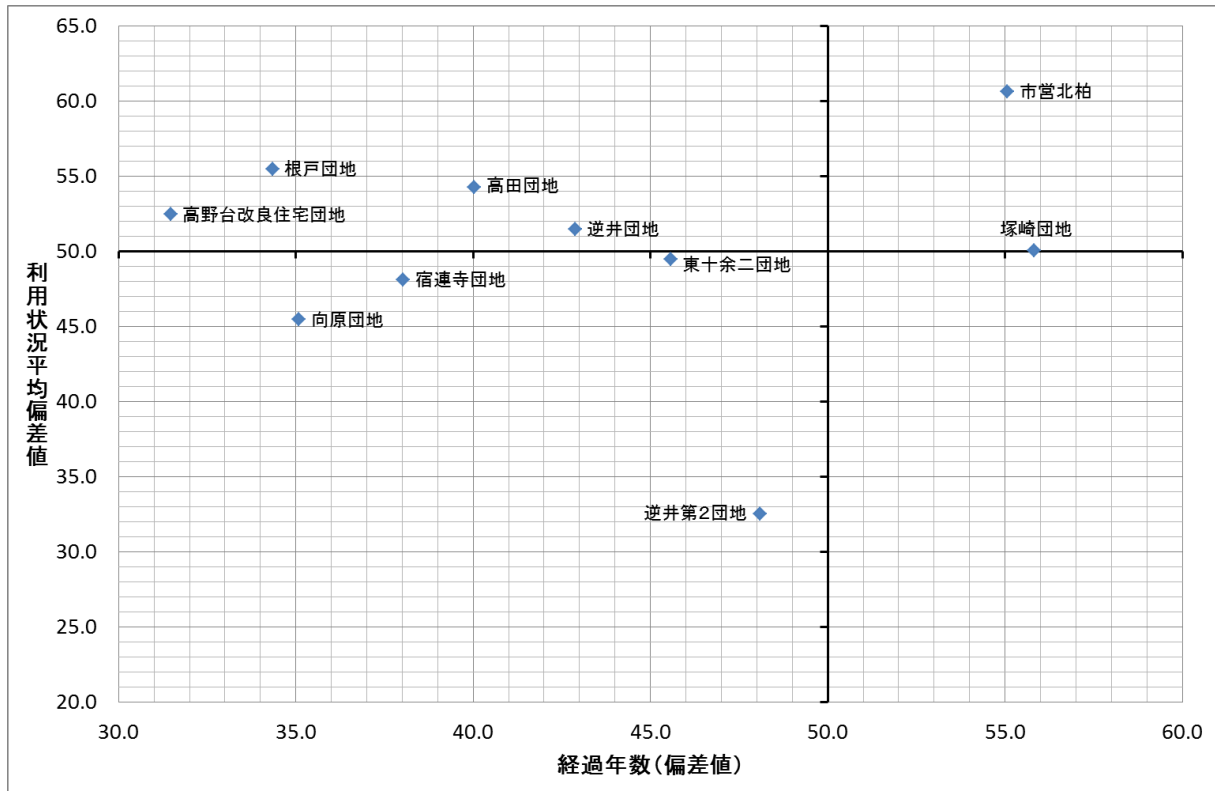


図 60 公営住宅の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

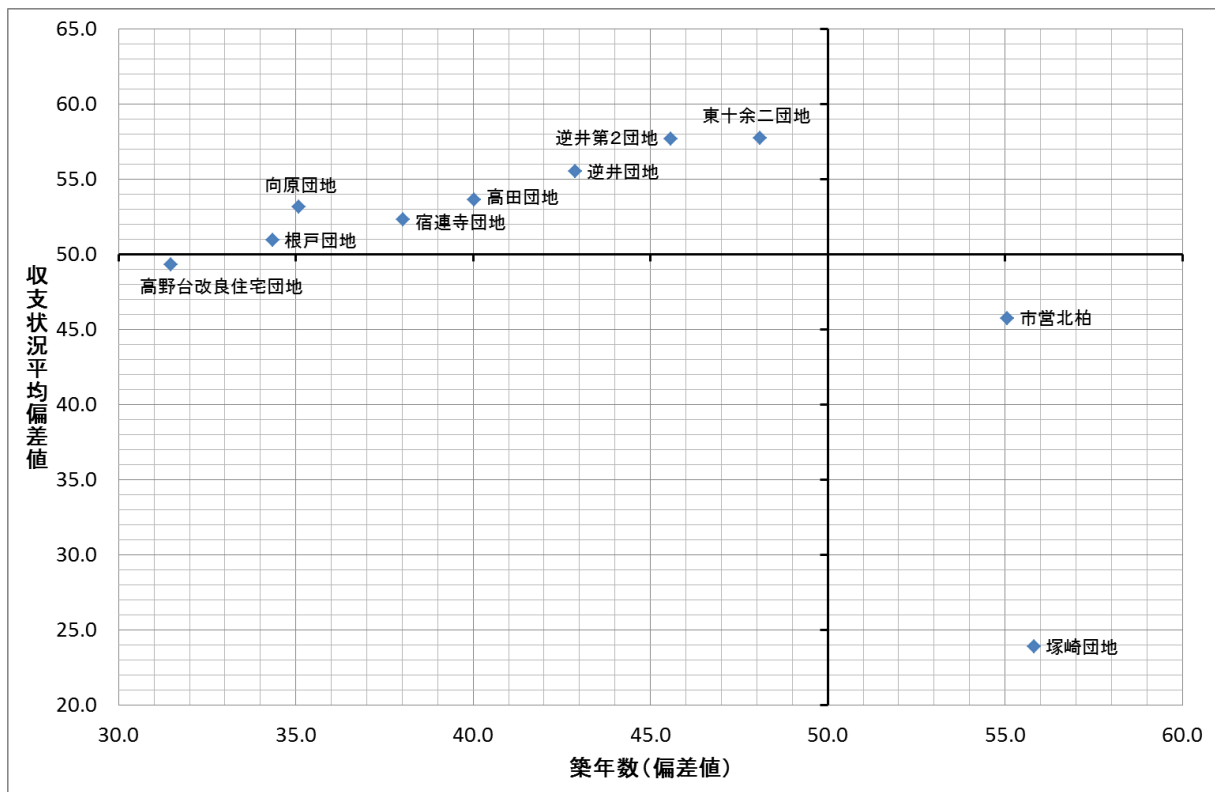


図 61 公営住宅の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

4-1-11 公園（建築物系施設）

(1) 公園（公園，緑地等）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 公園内にある管理事務所等の施設は，市内に15施設あり，老朽化の状況などから，廃止の検討や計画的な修繕の必要があります。 建設当時と比べ，公園に対する市民のニーズも変化していることから，施設の維持管理について見直しを図る必要があります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 一部の公園内の施設は，利用状況や劣化状況を踏まえて，廃止の方向で検討していきます。 指定管理者制度を導入している施設については，制度に基づいた業務の進捗管理や指定管理料の見直しなど，維持管理・運営の改善や効率化を進めます。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○一部の公園内の施設は，利用状況や劣化状況を踏まえて，廃止に向けた検討を進めます。 ○指定管理者制度を導入している施設は，維持管理・運営の改善や効率化を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

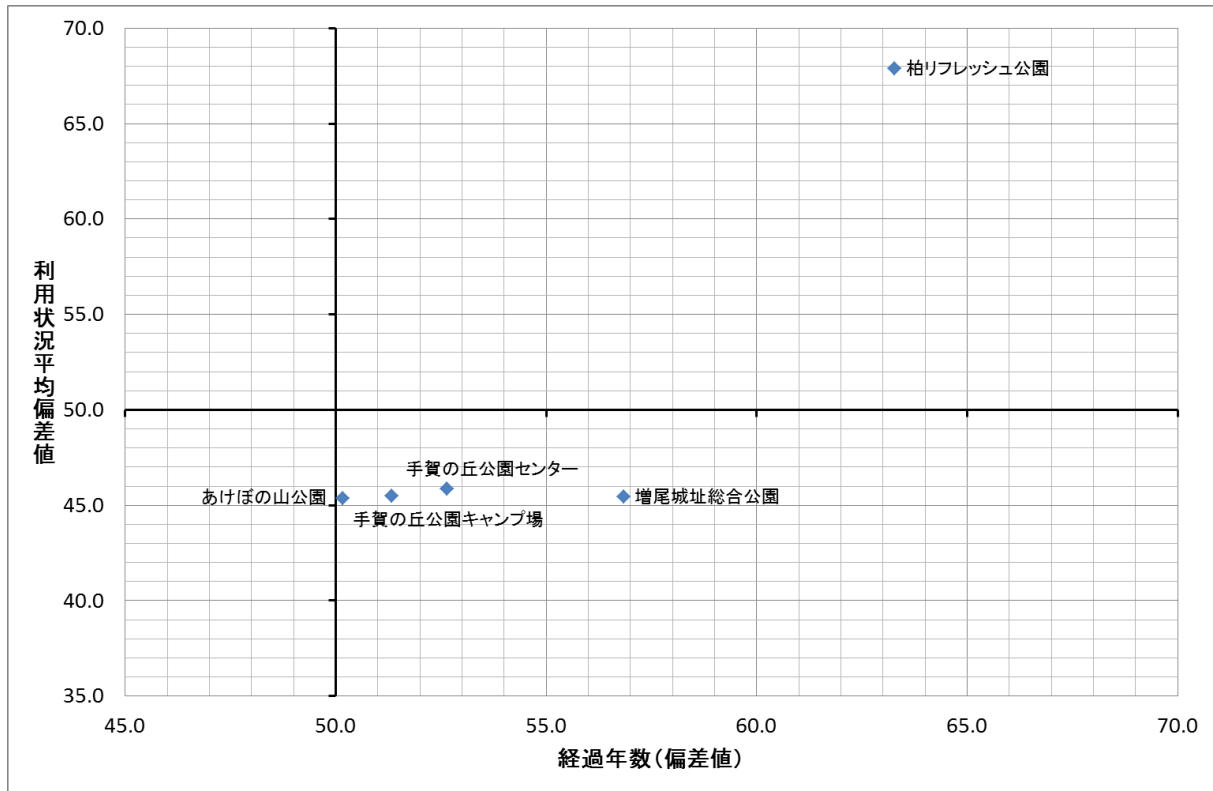


図 62 利用状況を把握している公園の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析

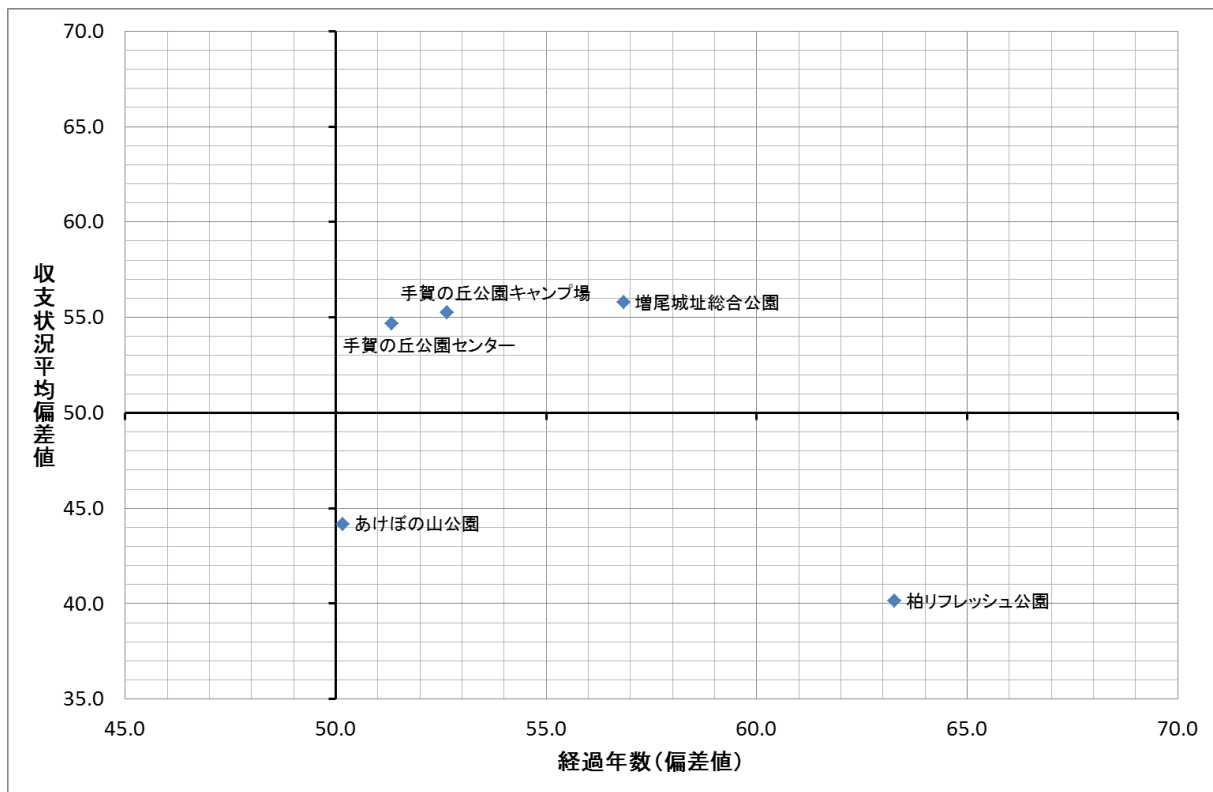


図 63 利用状況を把握している公園の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

4-1-12 供給処理施設

(1) 供給処理施設（清掃工場，リサイクルプラザ，し尿処理施設）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 供給処理施設は，市内に4施設あり，清掃工場，リサイクルプラザ，し尿処理施設に分類されます。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 「一般廃棄物処理基本計画」に基づき，適正なごみ処理及び生活排水処理の維持・改善に向けた施設のあり方（必要な機能，規模及び配置など）を検討し，整備を図ります。 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○施設のあり方を検討し，整備を図ります。	○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。

4-1-13 その他施設

(1) その他施設（公設市場，駐輪場，駐車場，その他）

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> • その他施設は，市内に33施設あり，公設市場，駐輪場，駐車場及びその他があります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> • 公設市場は，現状やニーズの変化にあわせて施設のあり方（必要な機能，規模及び配置など）を見直します。利用率の低い棟を中心に検討を進め，施設規模の縮減（ダウンサイジング）を検討します。また，施設利用料の見直しを行い，財源確保の強化に努めるとともに，将来的には民営化を検討します。 • 駐輪場は，指定管理者制度や包括的民間委託により管理運営を進めるとともに，現状やニーズの変化にあわせて民営化を検討します。駐輪場使用料は，「受益者負担の適正化基準」に基づき，見直しを行います。 • 市営駐車場は，利用料金制の導入や民営化を含む管理運営方法の見直しを行います。 • 篠籠田自転車保管所は，利用状況や劣化状況を踏まえ，建物の除却や保管場所の縮減及び未利用地の売却等を含めて，効率的な施設利用を図ります。 • 存続させる施設については，日常的な点検や定期的な修繕に加え，中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○施設管理の方向性を踏まえ，各施設の見直しを進めます。	○存続させる施設は，計画的な保全により長寿命化を図ります。

【参考】ポートフォリオ分析結果（「施設白書編」から再掲）

(i) 駐輪場

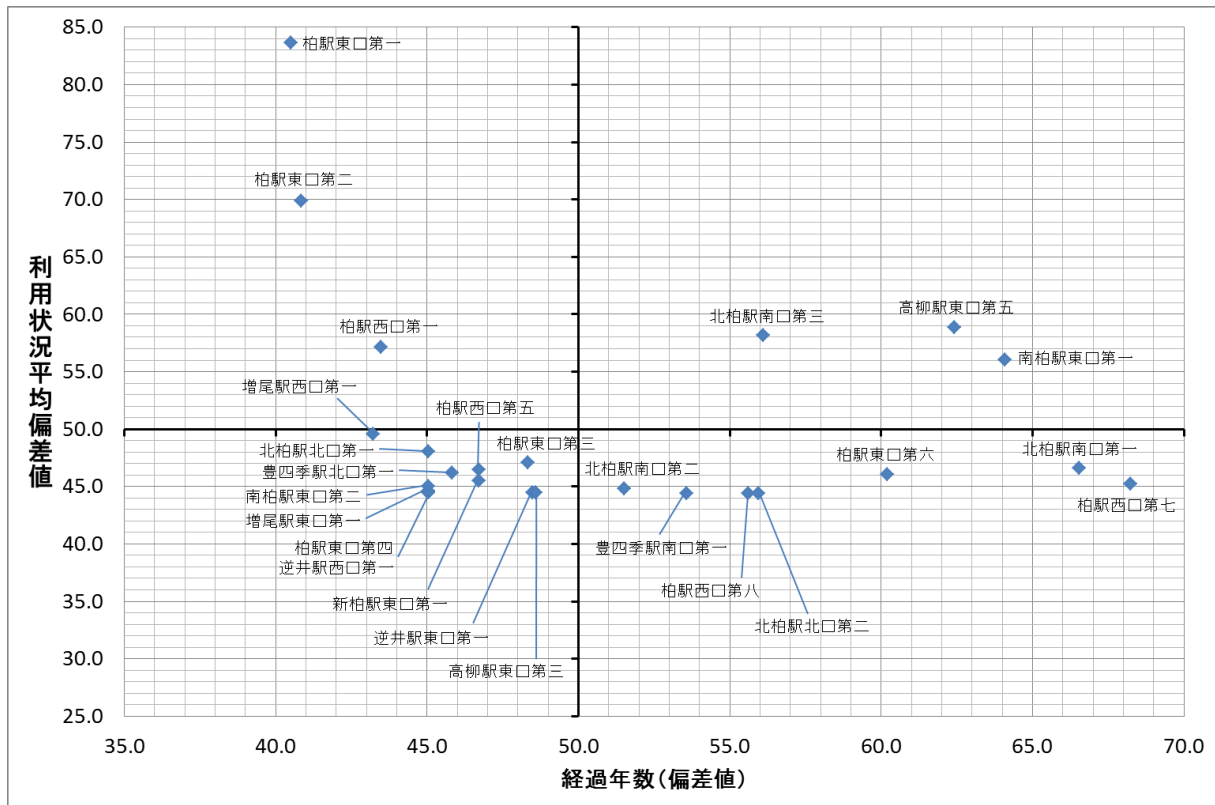


図 64 駐輪場の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析（全体）

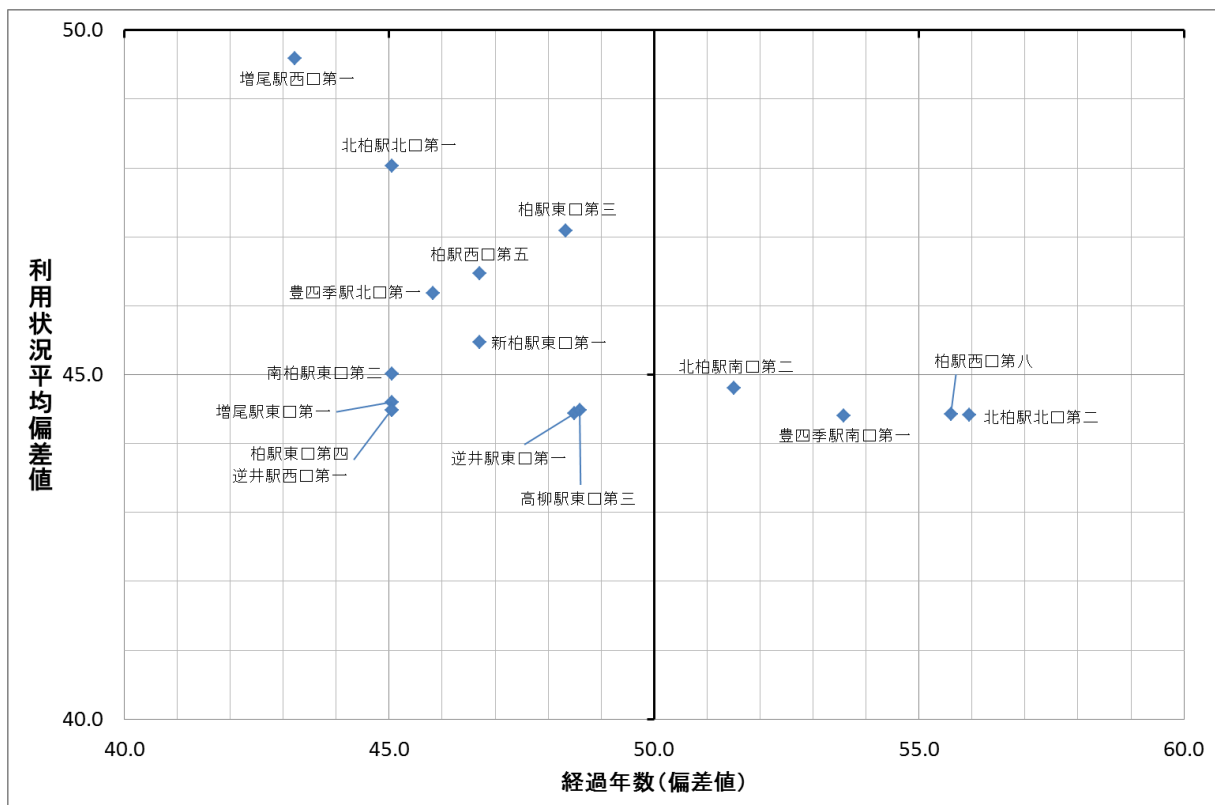


図 65 駐輪場の品質面（ハード）・供給面（ソフト）の分析（中央拡大）

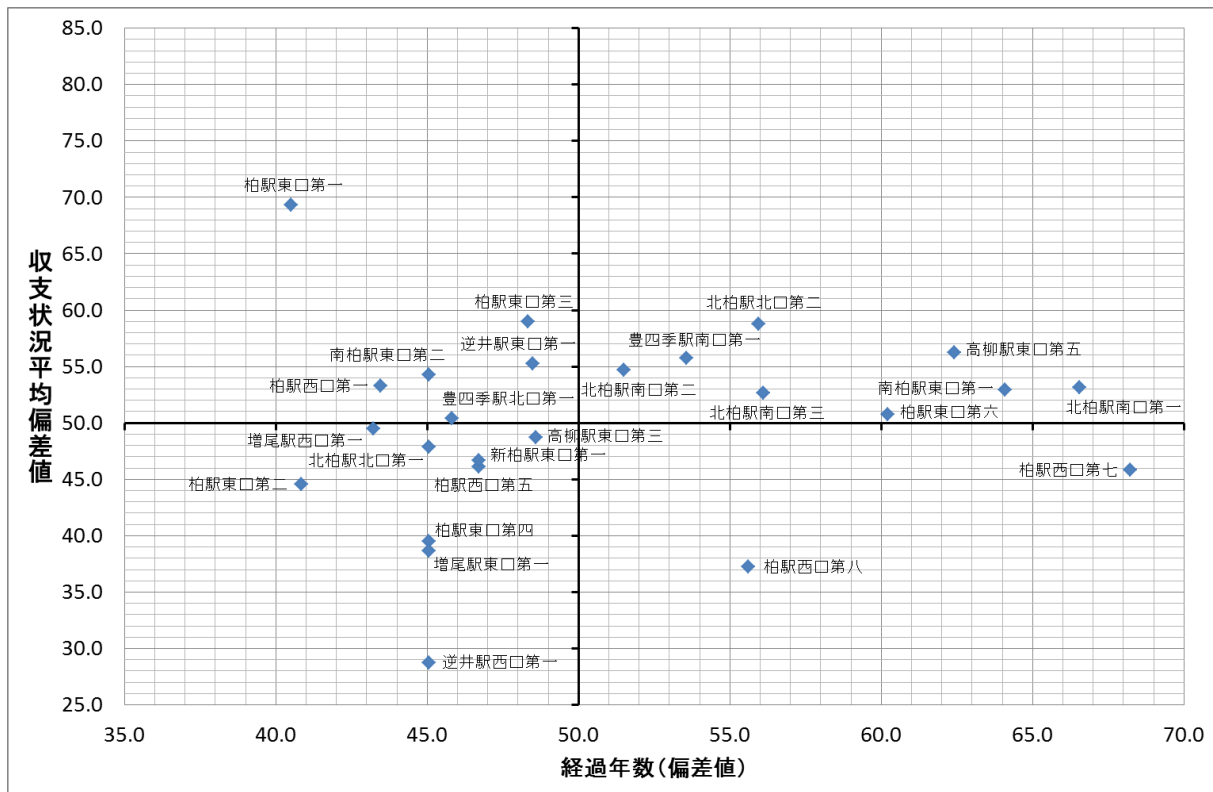


図 66 駐輪場の品質面（ハード）・財務面（ソフト）の分析

4-1-14 未利用施設等

(1) 未利用施設・廃止予定施設

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 未利用施設は、市内に4施設あり、廃止済みのスポーツ施設、その他教育施設等があります。 廃止予定施設は、市内に市営住宅が2施設あります。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 新たな利用が見込まれる施設は、できる限り複合化を図るとともに、必要な機能を精査し、施設規模の縮減（ダウンサイジング）を図ります。また、日常的な点検や定期的な修繕に加え、中長期的な計画に基づく大規模修繕等を実施すること（計画的な保全）により長寿命化を図ります。 耐震性が低く安全性が確保できない等の施設は、早急に除却し、跡地の有料貸付及び売却等により有効活用を図ります。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○次の施設は、除却します。 <ul style="list-style-type: none"> 旧利根サイクリング事務所 旧柏市社会福祉センター 	○存続させる施設については、計画的な保全により、長寿命化を図ります。

4-2 インフラ系施設

本市のインフラ系施設に関する類型別の方針は、次のとおりです。

4-2-1 上水道

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 上水道の施設（土木構造物、建築物、機械・電気設備等）や管路の多くは、人口急増期に建設されており、建設から30年以上を経過したものが多く存在しているため、市民生活の基盤となる重要なライフラインとして、安全な水を安定して供給していくための適切な維持管理が今後ますます重要になっていきます。 法定耐用年数による更新は使用実態を考慮すると現実的ではなく、また、必要以上に過大な費用負担を伴います。このため、施設の健全性を確保しながら計画的に更新を進めるため、施設・管路の種別ごとに、使用年数の実績や使用環境、劣化状況等を踏まえた市独自の更新基準年数を設定しています。これに基づきアセットマネジメントを実施することによって、中長期の更新需要を算出し、財政計画に反映させています。 このほか様々な経営努力により、令和40年頃までは健全な経営のもと、適切に維持管理を行うことが可能な見通しですが、人口減少等の環境変化による水需要の減少が想定を超えるスピードで進むと、これよりも早い時期に、経営改善のため料金改定が必要になることも考えられます。 また、市北部地域において人口増加により水需要が伸びている地域については、施設を再拡充する検討も必要です。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 水道事業ビジョンに基づき、アセットマネジメントに取り組み、中長期的な視点に立った計画的、効率的な施設の整備及び更新を進めていきます。 施設の耐震化や水道庁舎の建替えを進め、災害時の給水体制の確保を進めます。 現時点では、計画期間内における水需要の総量は減少しないという見通しであるため、管路や水源地の保有量を削減する予定はありません。ただし、中長期的に人口減少等の環境変化に伴い水需要が減少する見通しが明らかになった場合は、管径の縮小（ダウンサイジング）などによる維持管理費の縮減や施設の統廃合なども視野に入れて検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○水道事業ビジョンに基づき、着実に施設の耐震化・老朽化対策を推進します。	○水需要見通しを踏まえ、適正な総量管理を行います。

4-2-2 雨水排水施設

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 雨水調整池と多くの排水路は、標準耐用年数が50年の土木（コンクリート）施設ですが、雨水調整池の約3分の1、排水路の4分の3以上が平成元年までに設置され、老朽化の進行が懸念されています。 ポンプ施設は、定期的な保守点検により正常稼働を維持していますが、耐用年数を超過している機械施設もあり、不具合発生前に対応する必要性が高まっています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水施設の管理方法を、事後保全から予防保全（状態監視保全，時間計画保全）へと順次移行します。 排水路，雨水調整池及びポンプ施設（機械施設）については，劣化状況の把握や不具合発生時期の予測を踏まえ，設備の状態に応じた対策（状態監視保全）を実施します。 ポンプ施設（電気施設）については，不具合発生時期の予測が困難であることを踏まえ，一定の周期（目標耐用年数など）ごとの対策（時間計画保全）を実施します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○柏市雨水排水施設個別施設計画に基づき，排水路，雨水調整池及びポンプ施設を管理します。	○雨水排水施設の性質上，適宜状況の変化を踏まえつつ，柏市雨水排水施設個別施設計画に基づき，排水路，雨水調整池及びポンプ施設を管理します。

4-2-3 下水道

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 下水道は従来から機能維持のための点検や異状判明時の調査、修繕等を実施していますが、管路延長が長く、点検費用や管路施設の老朽化対策等の財源確保や人員の確保が課題となっています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 下水道中長期経営計画に基づき、計画的な点検等により施設状況の正確な把握に努め、予防保全型の維持管理等を計画的に実施し、費用の平準化と施設の長寿命化を図ります。 雨水排水施設の一部移管を受け入れるとともに、地域ごとの特性に合わせた計画的・効率的な管理を推進します。 下水道使用料は、コスト削減や新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、将来の収支見通しを精査したうえで継続的に料金変更を検討します。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
<ul style="list-style-type: none"> ○下水道中長期経営計画に基づき、着実にアセットマネジメントを推進します。 ○雨水排水施設の一部移管を受け入れます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○維持、更新需要を見据えた受益者負担(使用料)のあり方を検証し、将来にわたり安定的なサービスを提供するため経営基盤の強化を図っていきます。

4-2-4 道路・橋梁

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 道路は、幹線道路から生活道路まであり、利用形態及び利用率は多種多様となっています。 老朽化した道路については、これまで主に舗装面の改修を行ってきましたが、今後は路盤も含めた大規模な改修が必要となっていきます。 橋梁については、平成24年度から点検をはじめた結果、老朽化の進展が明らかになっているとともに、耐震性の確保について耐震補強が未完了なものが残されており、今後早急な対応が必要となっています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 道路維持管理計画及び橋梁維持管理計画等に基づき、計画的な維持管理を行い、長寿命化を図ります。長寿命化により橋梁の耐用年数は100年、道路（路面）は20年（1級・2級市道）とします。 適切な維持管理と費用の平準化を図ることを目的として、5年に1回の定期点検を適切に実施し、状況を把握します。その上で、損傷度合いに基づくリスクの予測、沿道の人口動向等を踏まえ、優先順位を定めて投資を行っていきます。 道路と橋梁は、利用がある限り廃止することは困難なため、現状の保有ストックを適切に維持管理していくこととします。 新規整備は極力抑制しますが、北部地域など人口増加が見込まれる場合等は状況に応じた整備も行います。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○道路維持管理計画（平成31年1月策定）及び橋梁維持管理計画（令和2年3月策定）等に基づき、計画的な維持管理・耐震対策を行います。	○適正な総量管理を行います。

4-2-5 公園

施設の状況	
<ul style="list-style-type: none"> • 宅地の開発等により毎年公園は増加するため、それに比例して管理費も増加します。また、建設されてから30年以上経過した公園が多く存在し、公園内の施設の老朽化や樹木の太径化による苦情の増加が顕著となっています。 • 公園施設長寿命化計画により、危険度が高いものを優先して修繕、更新を行っています。 • 新規に建設された公園の管理費や遊具等の施設の更新、太径化した樹木の伐採等に多額の予算が必要となっています。 	
施設管理の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> • 既存の公園については、社会情勢の変化を考慮し、計画的な再整備等に取り組みます。 • 施設及び各種設備の劣化状況や利用頻度等も勘案し、優先順位付けを行った上で、計画的な施設及び設備の更新を実施します。 • これまでと同様に、定期的な施設の安全点検を実施することにより、利用者の安全確保に努めます。 	
第1期計画期間に重点的に取り組む事項	中長期にわたり優先的に取り組む事項
○「公園内高木管理指針（平成28年9月1日策定）」に基づき樹木を管理します。	<ul style="list-style-type: none"> ○公園の老朽化した施設の更新を行います。 ○変化する社会情勢に対応した公園の配置のあり方等の検討を行います。 ○市民ニーズ等に対応した公園、管理しやすい施設内容の検討を行います。